

官報

號外

昭和十二年三月二十八日

○第七十回衆議院議事速記録第三十三號

昭和十二年三月二十七日(土曜日)

午後二時十八分開議

議事日程 第三十四號

昭和十二年三月二十七日

午後一時開議

第一(第一號)昭和十二年度歳入歳出總豫算追加案

第二(特第一號)昭和十二年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

第三(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

第四 産業組合中央金庫法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第五 産業組合自治監査法案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第六 外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第七 百貨店法案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第八 辦理士法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第九 昭和十二年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第十 會計検査院法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十一 日本銀行金買入法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十二 神戸商業大學移轉改築費ニ充用シタル金額ノ補填ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

昭和十二年度第一豫備金支出ノ件

昭和十年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十年度特別會計豫備費支出ノ件

昭和十年度滿洲事件第一豫備金支出ノ件

自昭和十一年一月昭和至同 年三月昭和

十年度第二豫備金支出ノ件

自昭和十一年一月昭和至同 年三月昭和

十年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出

ノ件

自昭和十一年一月昭和至同 年三月昭和

十年度特別會計第二豫備金支出ノ件

自昭和十一年一月昭和至同 年三月昭和

十年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

昭和十一年度第二豫備金支出ノ件

昭和十一年度特別會計第二豫備金支出ノ件

昭和十一年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算外支出ノ件

第十四 昭和十一年勅令第百八十九號(一定ノ地域ニ戒嚴令中必要ノ規定ヲ適用スルノ件廢止ノ件)(承諾ヲ求ムル件)

第十五 檢査計理士法案(松田竹千代外一名提出) 第一讀會

第十六 計理士法中改正法律案(古河和一郎君外三名提出) 第一讀會

第十七 舊獨逸膠州租借地還付ニ關スル條約實施ニ伴フ損失ノ補償ニ關スル法律案(久山知之君外一名提出) 第一讀會

第十八 司法書士法中改正法律案(立川平君提出) 第一讀會

第十九 司法書士法中改正法律案(中山福藏君外一名提出) 第一讀會

第二十 未成年者飲酒禁止法中改正法律案(坂東幸太郎君外十一名提出) 第一讀會

第二十一 勞働組合法案(鈴木文治君外一名提出) 第一讀會

第二十二 小作法案(杉山元治郎君外三名提出) 第一讀會

第二十三 狩獵法中改正法律案(鈴木正吾君提出) 第一讀會

第二十四 競争入札ノ取締等ニ關スル法律案(福田關次郎君提出) 第一讀會

第二十五 刑事訴訟法中改正法律案(岡本實太郎君外一名提出) 第一讀會

第二十六 刑事訴訟法中改正法律案(內藤正剛君外一名提出) 第一讀會

第二十七 刑事訴訟法中改正法律案(牧野賤男君外八名提出) 第一讀會

第二十八 產師法案(土屋清三郎君外五名提出) 第一讀會

第二十九 產師法案(山口久吉君提出) 第一讀會

第三十 家祿賞典與祿給與未濟ニ關スル法律案(原口初太郎君外六名提出) 第一讀會

第三十一 私生子ノ名稱ニ關スル法律案(內藤正剛君外一名提出) 第一讀會

第三十二 行政執行法中改正法律案(內藤正剛君外二名提出) 第一讀會

第三十三 刑法中改正法律案(中山福藏君外二名提出) 第一讀會

第三十四 刑法中改正法律案(牧野賤男君外八名提出) 第一讀會

第三十五 刑事判決宣告猶豫ニ關スル法律案(中山福藏君外二名提出) 第一讀會

第三十六 陪審法中改正法律案(中山福藏君外二名提出) 第一讀會

第三十七 陪審法中改正法律案(牧野賤男君外七名提出) 第一讀會

第三十八 交通機關調整法案(田中好君外一名提出) 第一讀會

第三十九 樺太ニ衆議院議員選舉法施行ニ關スル法律案(石坂豐一君外四名提出) 第一讀會

第四十 民法施行法中改正法律案(大石大君外三名提出) 第一讀會

第四十一 航空事業獎勵法案(中村嘉壽君提出) 第一讀會

第四十二 航空事業獎勵法案(末松偕一郎君外一名提出) 第一讀會

第四十三 護國共同組合法案(小林銆君外二名提出) 第一讀會

第四十四 護國共同組合法案(池田秀雄君外二名提出) 第一讀會

第四十五 民族優生保護法案(荒川五郎君外三名提出) 第一讀會

第四十六 恩給法中改正法律案(宮脇長吉君外一名提出) 第一讀會

第四十七 蠶絲業組合法中改正法律案(清水留三郎君外一名提出) 第一讀會

第四十八 傷痍軍人及戰公傷病死者遺族等ノ鐵道船舶等乘車船優遇ニ關スル法律案(中村又一君外五名提出) 第一讀會

第四十九 理容師法案(中山福藏君外十名提出) 第一讀會

第五十 建築士法案(小西和君外七名提出) 第一讀會

第五十一 金錢債務臨時調停法廢止法律案(升田憲元君外十三名提出) 第一讀會

第五十二 行政裁判所法案(宮古啓三郎君提出) 第一讀會

第五十三 行政訴訟法案(宮古啓三郎君提出) 第一讀會

第五十四 訴願法案(宮古啓三郎君提出) 第一讀會

第五十五 權限裁判法案(宮古啓三郎君提出) 第一讀會

第五十六 行政裁判官懲戒法案(宮古啓三郎君提出) 第一讀會

第五十七 郷又ハ町村祿高ニ對スル公債證書給與ニ關スル法律案(寺田市正君外三名提出) 第一讀會

第五十八 民事訴訟法中改正法律案(牧野賤男君外八名提出) 第一讀會

第五十九 觀光地助成法案(田中好君外一名提出) 第一讀會

第六十 中央卸賣市場法中改正法律案(八田宗吉君提出) 第一讀會

第六十一 中央卸賣市場法中改正法律案(土屋寛君外一名提出) 第一讀會

(左ノ報告ハ則讀ヲ經サルモ参照ノ爲茲ニ掲載ス)
一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
家事調停法案
提出者
坂東幸太郎君 星島二郎君
喜多壯一郎君 松山常次郎君
斯波 貞吉君
(以上三月二十六日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル質問書左ノ如シ
米國大統領ノ世界軍縮會議召集ニ關スル質問主意書
提出者
高知縣赤岡警察署ニ於ケル警察官ノ人權蹂躪事件ニ關スル質問主意書
提出者
衆議院議員選舉法中改正法律案ニ關スル質問主意書
提出者
(以上三月二十六日提出)

一昨二十六日當任委員補選選舉ノ結果左ノ如シ
第四部選出
決算委員 前田 幸作君(笠井重治君補闕)

一昨二十六日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ
六大都市ニ特別市制實施ニ關スル法律案(瀨川嘉助君外十名提出)委員
委員長 勝田 永吉君
理事 川崎末五郎君 上田 孝吉君
一昨二十六日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
輸出補償法中改正法律案(政府提出)委員
辭任井阪 豐光君 補闕永山 忠則君
製鐵事業法案(政府提出)委員
辭任宮澤 胤勇君 補闕矢野庄太郎君

○議長(富田幸次郎君) 休憩前ニ引續キ會議ヲ開キマス、此際特ニ一言致シマス、從來選舉ノ投票及ビ表決投票ノ場合ニ氏名點呼ヲ致シテ居リマシタガ、選舉投票ニ付テハ、規則ニ氏名點呼ヲ行フコトノ規定ガアリマスガ、表決投票ニ付テハ何等ノ規定ガアリマセス、仍テ今後ノ表決投票ノ場合ニハ、氏名點呼ヲ廢止シ、議席第一番ヨリ順次登壇ノ上投票スルコトニ改メマス、左様御諒承ヲ乞ヒマス(拍手)——日程第一乃至第三ハ豫算案デアリマスカラ、一括議題ト爲スニ御異議ハアリマセスカ

(異議ナシト呼フ者アリ)
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第一、第一號、昭和十二年度歳入歳出總豫算追加案、日程第二、特第一號、昭和十二年度各特別會計歳入歳出豫算追加案、日程第三、追第一號、豫算外國庫ノ負擔ナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、右三案ヲ一括シテ議題ト致シマス、豫算委員長ノ報告ヲ求メマス——小山松壽君(拍手)

商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)委員
辭任櫻井兵五郎君 補闕內藤 正剛君
防空法案(政府提出)委員
辭任笠井 重治君 補闕今井 新造君
船員法改正法律案(政府提出)委員
辭任深澤豐太郎君 補闕牧野 良三君

○議長(富田幸次郎君) 會議ヲ開キマス、此際暫時休憩致シマス
午後二時十九分休憩
午後三時七分開議

○議長(富田幸次郎君) 休憩前ニ引續キ會議ヲ開キマス、此際特ニ一言致シマス、從來選舉ノ投票及ビ表決投票ノ場合ニ氏名點呼ヲ致シテ居リマシタガ、選舉投票ニ付テハ、規則ニ氏名點呼ヲ行フコトノ規定ガアリマスガ、表決投票ニ付テハ何等ノ規定ガアリマセス、仍テ今後ノ表決投票ノ場合ニハ、氏名點呼ヲ廢止シ、議席第一番ヨリ順次登壇ノ上投票スルコトニ改メマス、左様御諒承ヲ乞ヒマス(拍手)——日程第一乃至第三ハ豫算案デアリマスカラ、一括議題ト爲スニ御異議ハアリマセスカ

(異議ナシト呼フ者アリ)
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第一、第一號、昭和十二年度歳入歳出總豫算追加案、日程第二、特第一號、昭和十二年度各特別會計歳入歳出豫算追加案、日程第三、追第一號、豫算外國庫ノ負擔ナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、右三案ヲ一括シテ議題ト致シマス、豫算委員長ノ報告ヲ求メマス——小山松壽君(拍手)

第一(第一號)昭和十二年度歳入歳出總豫算追加案
第二(特第一號)昭和十二年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

第三(追第一號)豫算外國庫ノ負擔ナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件
報告書
一(第一號)昭和十二年度歳入歳出總豫算追加案
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十二年三月二十六日
豫算委員長 小山 松壽
衆議院議長富田幸次郎殿

一(第一號)豫算外國庫ノ負擔ナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十二年三月二十六日
豫算委員長 小山 松壽
衆議院議長富田幸次郎殿

一(第一號)豫算外國庫ノ負擔ナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十二年三月二十六日
豫算委員長 小山 松壽
衆議院議長富田幸次郎殿

一(第一號)豫算外國庫ノ負擔ナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十二年三月二十六日
豫算委員長 小山 松壽
衆議院議長富田幸次郎殿

一(第一號)豫算外國庫ノ負擔ナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十二年三月二十六日
豫算委員長 小山 松壽
衆議院議長富田幸次郎殿

一(第一號)豫算外國庫ノ負擔ナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十二年三月二十六日
豫算委員長 小山 松壽
衆議院議長富田幸次郎殿

一(第一號)豫算外國庫ノ負擔ナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十二年三月二十六日
豫算委員長 小山 松壽
衆議院議長富田幸次郎殿

一(第一號)豫算外國庫ノ負擔ナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十二年三月二十六日
豫算委員長 小山 松壽
衆議院議長富田幸次郎殿

（小山松壽君登壇）

○小山松壽君 只今議題トナリマシタ第一號、昭和十二年度歳入歳出總豫算追加案、特第一號、昭和十二年度各特別會計歳入歳出豫算追加案、及ビ豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件ニ付キ、委員會ニ於ケル経過並ニ結果ノ概要ヲ御報告致シマス

茲ニ先ヅ以テ御紹介申上ゲマスルコトハ、外務省所管豫定經費追加中、秩父宮雅仁親王同妃兩殿下御渡歐ニ關シ、在外公館ニ於テ奉迎設備等ニ要スル臨時費、及ビ海軍省所管ニ於テ、英國皇帝陛下戴冠式記念觀艦式參列軍艦派遣ニ要スル爲メ、是方經費トシテ追加豫算ヲ求メラレテ居ルコトデアリマス

是ヨリ追加案ノ内容ノ主ナルモノヲ説明政シマス、外務省所管、在外公館臨時諸費、其他ニ關スル經費、内務省所管、地方財政補助金ノ増加、及ビ災害土木費補助、其他ニ關スル經費、大藏省所管、貴族院調查機關ニ關スル經費、及ビ憲法發布五十年記念祝典諸費、其他ニ關スル經費、海軍省所管、滿洲事件費、其他ニ關スル經費、司法省所管、司法保護事業獎勵ニ關スル經費、文部省所管、第十二回オリムピック大會費補助、其他ニ關スル經費、農林省所管、災害復舊施設費及ビ其他ニ關スル經費、商工省所管、帝國燃料興業株式會社設立ニ關スル經費、萬國博覽會開催助成ニ關スル經費、北樺太石油資源開發助成費及ビ鑛山災害防止ニ關スル經費、其他ノ追加、逓信省所管、航空輸送補助費及ビ電氣事業ノ調査等ニ關スル經費、拓務省所管、滿洲拓殖株式會社出資拂込金等デアリマシテ、其金額ハ五千八百十九萬餘圓デアリマス、而シテ是ガ財源ト致シマシテハ、普通歳入ノ増加六百五十萬圓公債金ノ増加五千六百六十萬圓トナツテ居リマス、普通歳入増加

ノ主要ナルモノハ、貨幣交換差増デアリマシテ、其金額五百八十萬圓、公債ノ増加ハ、滿洲事件公債四十萬圓、歳入補填公債五千一百十萬圓デアリマス、次ニ歳出追加豫算額ハ、經常部八十萬圓、臨時部五千七百三十萬圓デアリマス

右ノ追加豫算額ヲ加ヘマシタル昭和十二年度一般會計總豫算額ハ、歳入歳出共ニ二十八億七千二百十萬圓デアリマシテ、之ヲ昭和十一年度實行豫算額ニ比較致シマス、歳入ニ於テ五億六千六百五十萬圓、歳出ニ於テ五億六千六百五十萬圓ノ増加ト相成ツテ居リマス、又公債發行豫定額ハ、一般特別兩會計ヲ通ジ九億六千五百四十萬圓デアリマシテ、之ヲ昭和十一年度實行豫算ノソレニ比シマスレバ、一億七千七百九十萬圓ノ増加ト相成ツテ居ルデアリマス

特第一號、昭和十二年度各特別會計ノ豫算追加案ハ、大藏省所管、國債整理基金、公債金及ビ關東局、文部省所管、帝國大學及ビ官立大學、拓務省所管、朝鮮總督府ノ各所管ニ屬スル經費ノ追加デアリマス、追第一號ハ一般會計、内務、農林、商工、逓信、拓務、各省所管、及ビ特別會計、大藏省所管關東局、拓務省所管朝鮮總督府ニ於テ、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件デアリマス、此内地方財政補助金ノ増加三千萬圓ハ、過日ノ豫算委員會ニ於ケル政府ノ言明ヲ實行シタモノデアリマス

委員會ニ於ケル審査ニ現レマシタ主ナル質疑應答ヲ御説明政シマスレバ、先ヅ滿洲事件費ニ對スル質疑ノ答辯トシテ、海軍當局ヨリ北支及ビ南支方面ニ於ケル警備狀況ニ付キ説明ガアリマシタ、次イデ外務當局ニ對シ外交政策ニ對スル所信ヲ質シ、過般本會議其他ニ於ケル外務大臣ノ演說ニ關スル問題ニ付テ質疑ヲ爲シ、現下内外ノ情勢ニ處スル當局ノ決意ヲ質シマシタニ對シ、

外務大臣ヨリ演說ニ對スル補充的ノ説明ヲセラレ、尙ホ現下ノ國際情勢ニ處スルニ當リ、十分ナル決意アル旨ヲ答辯セラレタノデアリマス、又北洋漁業權益保護ノ條約ニ關スル質疑ニ對シ、政府ハ現在ニ於ケル協定ハ暫定的ノモノナルモ、其有效期間内ニハ必ズ是ガ根本的解決ヲ爲ス方針ナル旨ヲ答辯セラレタノデアリマス、更ニ對支經濟、外交ニ關シ質疑ガアリマシタ、政府ハ日支經濟提携ハ政治問題ト不可分ノ關係ニアルコトヲ強調シ、尙ホ支那ニ於ケル貨幣制度其他ニ付テモ、重要緊切ナル質疑應答ガ重ナラレタノデアリマス

次ニ國策統合機關ニ關スル豫算ノ未提出ニ關聯シ、庶政一新ノ眼目タル行政機構ノ改革等ニ關スル現内閣ノ熱意ヲ質シタルニ對シ、政府ハ此問題ニ付テハ目下慎重調査研究中ナル旨ヲ答辯セラレマシタ

次ニハ燃料國策問題ニ關シ、其現下ノ重要性ニ鑑ミ、官民協力國家總意ノ大決心ヲ以テ、最善ノ方策ヲ樹立セラレントヲ要望セラレ、尙ホ政府ノ計畫セル國策ノ要點、其他諸種ノ事項ニ付キ質シタルニ對シ、政府ハ其計畫セル燃料國策ニ付テ説明ヲ爲シ、帝國燃料興業株式會社ノ事業計畫其他ノ事項ニ付テ説明セラレマシタ、尙ホ此問題ニ關シマシテハ特ニ懇談會ヲ開キ、政府ノ詳細ナル説明ヲ聴取致シタノデアリマス

次ニハ「オリムピック」大會ニ關シ、其經費補助ニ關スル問題、並ニ其組織委員會、其他敷地問題、及ビ滿洲國ノ參加問題等ニ付テモ、質疑應答ガ重ナラレマシタ

次ニ滿洲拓殖株式會社並ニ朝鮮林業開發株式會社ノ設立問題ニ關シテ、是等會社ノ事業計畫ノ内容ニ付テモ質疑ヲ致シマシタ、政府ハ之ニ對シテ滿洲移民問題並ニ朝鮮ニ於ケル林業開發等、是等會社ノ事業計畫ヲ説明シ、尙ホ之ニ關シテモ特ニ懇談會ヲ開キマシテ、詳細ニ政府ノ説明ヲ聴取致シタ

ノデアリマス、更ニ近時ニ於ケル是等半官半民ノ特殊事業會社ノ濫設防止ニ關シ、政府ノ所見ヲ質シ、其注意ヲ促サレタノデアリマス

次ニ電氣事業統制調查會ニ關シ、電力統制ニ關スル法案ヲ、次期議會ニ提案スルヤトノ質問ニ對シ、政府ハ前内閣ノ案ニ再檢討ヲ加ヘ、來ルベキ議會ニ提案致シタ旨ヲ答辯セラレマシタ

其他總豫算ニ對スル附帶決議ニ鑑ミ、地方財政補助金ノ分配方法ニ關シテハ、内務大藏兩省ニ於テ其適正ヲ期スル爲メ、委員會ノ構成其他ニ付キ十分留意シ、最善ノ途ヲ講ズベシト云フコトヲ要望セラレタノデアリマス、之ニ對シ政府ハ其分配方法ニ付テハ、十分其趣旨ヲ尊重シ、是方適正ヲ期スル旨ヲ答辯ガアリマシタ、又一般會計、特別會計ヲ通ジテ、將來豫算ノ金額ハ益々増大スル必然ノ傾向ニアルノミナラズ、殊ニ豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ニ關スル金額ノ過大ナルニ鑑ミ、將來財政ノ基礎ニ付キ、深甚ノ考慮ヲ拂ハレントヲ要望セラレマシタ、尙ホ此豫算ノ實行ニ際シテ、財務當局ノ周到ナル注意ヲ促サレタノデアリマス、又公債ノ消化ニ付テモ、政府ノ信念ヲ質サレタルニ對シ、政府ハ豫算ノ實行ト公債ノ増發、乃至將來ニ於ケル財政ノ膨脹ニ付テハ尙ホ十分留意シ、經濟界ニ惡影響ヲ及ボサザルヤウ、極力努力スル旨ヲ答辯セラレタノデアリマス

尙ホ公債ノ増發ニ付テハ、政府ハ金融機關ノ動員其他ノ方策ヲ講ジ、實情ニ即シ、成ベク無理ヲセズニ、其目的ヲ達成スル方針ナル旨ヲ答辯セラレマシタ、更ニ貨幣交換差増問題ニ關スル質疑ニ對シ、政府ハ時價昂騰セル金ノ現送ニ依リ、此結果ヲ生ジタル旨ヲ答辯セラレタノデアリマス

其他質疑應答ノ詳細ハ、速記録ニ就テ御覽ヲ願フコトト致シマシテ、茲ニハ之ヲ省

略致シタイト存ジマス、以上ハ委員會ニ於ケル概要デアリマス

討論ニ入リマシテ、立憲民政黨ヲ代表シテ比佐昌平君ヨリ、政府ハ地方財政補助金三千万圓増額ヲ追加豫算ニ計上セルハ之ヲ諒トスルモ、同時ニ中央、地方ヲ通ズル税制ノ根本對策ヲ圖リ、地方財政調整交付金制度ヲ確立ヲ要望スル、政府ハ災害土木費補助ヲ追加豫算ニ計上セルモ、同時ニ砂防費等ノ治山、治水ノ根本對策ヲ講ズベキコトヲ要望スル、帝國燃料興業株式會社、滿洲拓殖會社、朝鮮林業開發株式會社等ノ特殊會社ハ、從來ノ實績ニ徴シテ、事業經營上ノ十分ノ努力ヲ要望スル、**「オリムピック」大會ニ對スル援助ハ之ヲ認ムルト共ニ、此機會ニ於テ將來記念トスベキ綜合運動場ヲ建設シ、國民體育ノ殿堂ヲシメシコトヲ望ムトノ趣旨ヲ述ベラレ、後ニ申上ゲマス共同提案ニ成ル附帶決議ヲ附シマシテ、賛成ノ旨ノ發言ガアリマシタ**

次ニ立憲政友會ヲ代表シテ木村正義君ヨリ、本追加豫算ニハ國策調査立案ニ關スル經費ノ計上ナキモ、既定經費ノ範圍内ニテ、右機關ノ改組整備ヲ圖ルト共ニ、速ニ文官任用竝ニ身分保障制度ノ改革ヲ圖リ、人材登用ノ途ヲ拓クベキデアル、災害防除ニ付テハ、從來ノ施設ニ鑑ミ、速ニ治山、治水ノ根本計畫ヲ確立シ、其徹底ヲ期セネバナラナイ、帝國燃料興業株式會社、朝鮮林業開發株式會社及ビ滿洲拓殖會社ニ付テハ、所期ノ目的ノ達成ニ多大ノ疑ガアル、周到ナル注意ヲ以テ其實施ニ當リ、萬違算ナキヲ期セバナラナイ、金融統制ニ付キ何等カノ考慮ヲ計ルト共ニ、資金調整ノ全般の方策ヲ講ゼバナラナイ、國際「オリムピック」大會、皇紀二千六百年記念博覽會ニ付キ、政府ハ遺憾ナキヲ期セラレタシトノ趣旨ヲ述ベラレマシテ、是亦後ニ申上ゲ

マス附帶決議ヲ附シテ、賛成ノ旨ヲ發言セラレマシタ

次ニ昭和會ノ豐田收君ヨリハ、又後ニ申上ゲマス附帶決議ト同様ノ趣旨ヲ述ベラレマシテ、賛成セラレマシタ
次ニ第二控室ノ平野力三君ヨリハ、地方財政援助費交付ニ對スル希望、及ビ滿洲拓殖會社ノ事業計畫ニ對スル希望ヲ述ベラレマシテ、賛成セラレマシタ
次ニ國民同盟ノ伊豆富人君ヨリハ、地方交付金ニ關スル件、及ビ政府出資ノ事業會社ノ會計検査ニ關スル希望ヲ述ベラレマシテ、賛成セラレマシタ
又社會大衆黨ノ淺沼稻次郎君ヨリハ、總豫算ニ對スル返上論ト同様ノ趣旨ニ依リ、編成替ヲ求ムベシトノ發言ガアリマシタ
次ニ東方會ノ由谷義治君ヨリハ、佐藤外交ニ對シテ信任セズトノ趣旨ニ依リ、本案ニ賛意ヲ表シ難シトノ發言ガアツタノデアリマス

茲ニ前ニ申上ゲテ置キマシタ民政黨ノ比佐昌平君、政友會ノ木村正義君、昭和會ノ豐田收君ノ三君ヨリ各述ベラレマシタ、共同提案ニ成ル附帶決議ヲ朗讀シ御紹介致シマス
附帶決議
一 政府ハ速ニ治山治水ニ關スル根本計畫ヲ確立シ以テ災害防除ノ徹底ヲ期スベシ
一 帝國燃料興業株式會社、朝鮮林業開發株式會社及滿洲拓殖會社ノ計畫ニ就テハ各事業ノ本質ニ鑑ミ且既往特殊會社ノ實績ニ徴シ前途憂慮ニ堪ヘザルモノアリ仍テ政府ハ其ノ經營ニ萬遺憾ナキヲ期スベシ
一 政府ハ公債ノ發行、民間事業資金ノ調達及對滿投資ニ關スル全般の方策ヲ講ジ其ノ調整ヲ圖ルベシ
討論ヲ終局致シマシテ、採決ノ結果大多數

ヲ以テ追加豫算三案ヲ可決致シマシタ、尙ホ附帶決議モ決定致シマシタ、此段御報告申上ゲマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 採決致シマス、三案ノ委員長報告ハ何レモ可決デアリマス、三案ヲ一括シテ委員長報告ノ通り決スルニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス
(賛成者起立)
○議長(富田幸次郎君) 起立多數(拍手)仍テ三案共委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ(拍手)
○中山福藏君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際日程第九乃至第十二ノ四案ヲ一括シテ繰上ゲ上程シ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス
○議長(富田幸次郎君) 中山君ノ動議ニ御異議ハアリマセスカ
(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、日程第九、昭和十二年度一般會計歲出入ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案、日程第十、會計検査院法中改正法律案、日程第十一、日本銀行金買入法中改正法律案、日程第十二、神戶商業大學移轉改築費ニ充用シタル金額ノ補填ニ關スル法律案、右四案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長木暮武太夫君

第九 昭和十二年度一般會計歲出入ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)
第十 會計検査院法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)
第十一 日本銀行金買入法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十二 神戶商業大學移轉改築費ニ充用シタル金額ノ補填ニ關スル法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書
一 昭和十二年度一般會計歲出入ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十二年三月二十六日
委員長 木暮武太夫
衆議院議長富田幸次郎殿

報告書
一 日本銀行買入法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十二年三月二十六日
委員長 木暮武太夫
衆議院議長富田幸次郎殿

〔木暮武太夫君登壇〕

○木暮武太夫君 只今議題トナッテ居リマス昭十二年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案、其他三件ノ法律案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ノ概略ヲ御報告申上ゲマス

先ヅ大體四法律案ノ内容ニ付テ申上ゲマスレバ、第一ノ法律案ハ、只今豫算委員長カラ御報告ニナリマシタ追加豫算ノ財源トシテ、新ニ五千二百二十萬圓ノ公債ヲ發行シ得ルコトノ法律案デアリマス、第二ノ法律案ハ、近年各般ノ施設年ト共ニ漸ク多キヲ加ヘマシテ、殊ニ國際關係ノ緊迫益々激シキニ當リマシテ、國防充實ノ經費ガ非常ニ多クナツタガ爲ニ、會計検査院ノ仕事ノ範圍ハ益々擴大シテ參リマシタノデアリマス、加フルニ滿洲事件以後數年ヲ經過致シマシテ、今ヤ在滿機構ノ段々平常化スルヤウニ相成リマシタ時ニ於テハ、廣大ナル土地ニ實地ノ財政検査ヲ致シマスル場合ニ一ニ現狀ニ於テハ、手不足ヲ感ズルコト大ナルモノガアルノデアリマス、此際從來ノ三部ヲ四部ニ増シマシテ、サウシテ國家財政ノ検査ニ萬遺憾ナキヲ期シタイト云フノガ、第二ノ法律案ノ趣旨デアリマス、第三ノ日本銀行金買入法中改正法律案ハ、御承知ノ通り昭和九年四月ニ施行セラレマシタ同法ニ依リマシテ、日本銀行ガ盛ニ金ヲ買入レテ居ルノデアリマスケレドモ、金ヲ日本銀行ガ買入レマシタ所ノ價格ト、日本銀行ガ兌換準備トシテ繰入レマスル所ノ、貨幣法決定ニ依ル一匁五圓ノ價格トノ開キニ對シマシテハ、政府ハ債務證書ヲ同行ニ差入レマシテ、債務ノ負擔ヲ致シテ居ルノデアリマス、是ガ同法ニ於テハ二億圓ヲ限度トシテアリマスルガ、最近日本銀行ノ金ノ買入ガ増シマスニ伴レマシテ、政府ノ同行ニ對スル債務負擔ノ餘剩ト云フモノハ、僅ニ二千萬圓内外ニ相成ツテ居ルノデアリマス、今後益々

金ヲ同行ヲシテ買ハシメナケレバナラナイ以上ハ、更ニ二億圓ヲ追加致シマシテ、四億圓政府ガ債務ヲ負擔スルコトノ餘裕ヲ持チタイト云フノガ、此法律ノ一ツノ改正ノ趣旨デアリマス、又金ヲ買入レマシタ場合ニ、其金ヲ外貨資金トシテ利用致シマスル場合ニハ、從來ハ一々之ヲ政府ノ會計ニ入レマシテ、ソレカラ處分シナケレバナラナイコトニ相成ツテ居ルノデアリマスガ、今度ハ政府ガ日本銀行ニ命令致シマシテ、日本銀行ヲシテ自由ニ買入レタ金ヲ海外ニ送リマシテ、處分セシムルコトヲ得サセルヤウニ致シタイト云フノガ、本案ノ提出ノ趣旨デアアルノデアリマス、ソレカラ最後ノ法律案ハ、神戸商業大學ガ設立移轉サル、時ニ當リマシテ、百三十二萬何ガシト云フ金ヲ、一般會計カラ之ニ充用致シタノデアリマシテ、此金ハ昭和十一年度限り返済スベキコトニ相成ツテ居ルノデアリマスケレドモ、地所ヲ賣ルコトノ困難ナルコトヤ、幾多ノ支障ガアリマスル爲ニ、官立大學資金カラ一般會計ニソレヲ補填スルコトガ困難デアリマス、仍テ年限ヲ二年延バシテ、昭和十三年度マデ、其期限ヲ延期致シマシテ、昭和十二年度ニ於キマシテハ、約半額ノ七十萬圓ヲ一般會計ノ追加豫算財源トシテ、繰入レサセヨウト云フ所ノ案デアリマス、而シテ委員會ヲ數回ニ互リ開キマシテ、委員各位カラ極メテ熱心ナル質疑ガアリ、之ニ對シ政府當局カラモ、極メテ懇切丁寧ナル答辯ガアリマシタ、質問ノ大要ヲ申上ゲマスルナラバ、先ヅ政府ハ最近爲替維持ノ爲ニ金ノ現送ヲ開始致シテ居ルガ、一體金ノ現送ト云フモノノ金額ノ範圍ハ、ドノ邊デ止メル考ヲ大藏大臣ハ持ツテ居ルカト云フ質問ニ對シマシテハ、大藏大臣ノ答トシテ、現在ノ正貨準備ヲ減ズルト云フコトナク、金ノ我國ニ於ケル年産額ノ範圍内ニ金ノ現送額ヲ止メル方針デアルト云フ、明

確ナ御答辯ガアリマシタ、ソレカラ日本銀行ノ金買入値段ト兌換準備ニ繰入レマスル貨幣法ノ金一匁五圓ト云フ値段トノ開キノアルコトヲ指摘致シマシテ、平價切下ニ付テ大藏大臣ハドウ云フ考ヲ持タル、ヤト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シマシテ大藏大臣ハ、我國ノ現在ノ如ク金輸出ヲ禁止シテ、國內ニ於テ金貨ガ流通シナイ國ニ於テハ、對外價値ノ上カラ見マシテハ、所謂平價切下ト云フコトハ意味ヲナサナイデハナイカ、金輸出ガ解禁サレテ、金貨ノ鑄造シガ自由ニ許サレル時ニシテ初メテ平價ノ切下ハ考フベキモノダト云フ大藏大臣ノ御話ガアリマシタ、ソレカラ金ヲ集メル政策、所謂集金政策ヲ更ニ徹底スルコトガ、現時ノ國際危局ノ實情ニ鑑ミテ、國民經濟上カラ見テモ、國防ノ上カラ見テモ、極メテ必要デハナイカ、ソレニハモット更ニ進ンデ產金政策ヲ徹底シテ獎勵スベキデハナカラウカ、要スルニ金買入値段ヲ引上ゲルガ宜イト思フガ、其考ハドウデアアルカト云フ御質問ガアリマシタ、之ニ對シマシテハ、大藏大臣ハ只今ノ倫敦金塊相場ヲ日英爲替相場ニ換算シテ、ソレノ九〇ヲ以テ日本銀行ガ買入レテ居ルト云フコトヲ以テ妥當ナルモノデアアル、之ヲ變ヘル意思ノナイコトヲハッキリト言明サレタノデアリマス、更ニ又一體正貨ヲ持ツテ居ルト云フコトハ、經濟上カラモ、國防上カラモ、極メテ大切ナコトデハナイカ、成ベク正貨ハ現送シナイデ、之ヲ保有スル所ノ政策ヲ執ラナクチヤナラヌデハナイカト云フ御質問ガゴザイマシタ、之ニ對シマシテハ、正貨ノ保持ト云フコトハ、國防上國民經濟上、又國內ニ於ケル所ノ貨幣ノ價値維持上、極メテ必要デアアルコトハ申ス迄モナイ、併ナガラ生産力擴充ノ爲ノ資材ノ輸入尻ノ決済トシテ、其代リニ金ヲ已ムヲ得ズ現送スルト云フコトヲ、敢テ甚シク悲觀スルニハ當ラヌデハナイカト云フ御答辯

ガアツクノデアリマス、更ニ又最近御承知ノ通り「コール」ガ引詰ツテ、三分五厘公債ガ發行價格ヲ割ルヤウナ市場ノ形勢ヲ説カレテ、之ニ對シテ大藏大臣ハドウ云フ御考ヲ持タレテ居ルカト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シテ大藏大臣ハ、是ハ月末ヤ或ハ會計年度末ニ起ル所ノ一時的ノ現象デアツテ、政府トシテハ何等之ニ對シテ對策ヲ講ズルノ必要ナシト考ヘテ居ルト云フ御答辯ガアツタノデアリマス

討論ニ入りマシテ、先ヅ第一ノ昭和十二年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案ヲ議題トシテ討論ニ入りマシタ、之ニ對シマシテ民政黨ヲ代表シテ佐藤謙之輔君カラ賛成ノ御意見ガアリ、政友會ノ松山君、昭和會ノ三鬼君カラモ賛成ノ御演說ガアリマシタ、社會大衆黨ノ塚本君カラハ、反對ノ御意見ノ陳述ガゴザイマシテ、討論ヲ終結シテ採決ノ結果、多數ヲ以テ第九ノ昭和十二年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案ハ、政府原案ノ通り可決確定致シマシタ、更ニ他ノ三案ヲ一括シテ議題ニシテ討論ニ入りマシタ、民政黨ヲ代表シテ佐藤謙之輔君カラ賛成ノ御意見ガアリマシタ、政友會ノ片山君、昭和會ノ三鬼君、社會大衆黨ノ塚本君カラ、三案ニ對スル賛成ノ御議論ガアリマシタ、更ニ民政黨ノ尾崎重美君カラ、會計検査院法中改正法律案ニ付キマシテ、其必要ナル所以ヲ力説サレテ、御賛成ノ御意見ノ開陳ガゴザイマシタ、討論ヲ終結シテ、採決ノ結果、滿場一致ヲ以テ、右三案ハ政府原案ノ通り可決確定スベキコトニ決シマシタ、右委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス（拍手）

○議長（富田幸次郎君） 四案中、昭和十二年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案ニハ反對ガアリマスカラ、先ヅ此案ノ審議ヲ爲シ、次ニ其他ノ

三案ヲ一括シテ審議スルコト致シマス、是ヨリ昭和十二年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案ノ審議ニ入りマス、本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮リ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

〔贊成者起立〕
○議長(富田幸次郎君) 起立多數(拍手) 仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○中山福藏君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

提出者立川平君——提出者方議席ニ居リマセス、後週シニ致シマス、日程第三十、家祿賞典給與未済ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者中村又一君

第三十 家祿賞典給與未済ニ關スル法律案(原口初太郎君外六名提出) 第一讀會

家祿賞典給與未済ニ關スル法律案

第一條 明治三年九月十日太政官布告藩制施行以後家祿賞典給與有シタル者及其ノ家名承繼人ニシテ明治九年八月太政官第百八號布告及同年十二月太政官第百五十二號布告ニ依リ公債證書ヲ給與スル迄ノ間ニ於テ其ノ祿高ニ對スル全部ノ給與ヲ受ケサル者又ハ相當額ノ給與ニ不足アル者ハ本法施行ノ日ニ於テ其ノ本人又ハ其ノ家名承繼人ニ限リ明治三十年法律第五十號家祿賞典給與處分法及明治三十二年法律第八十四號家祿賞典給與處分法施行法ヲ準用シ祿高整理ノ爲發行スル公債證書ヲ以テ之ヲ給與ス國事ニ關スル犯罪ノ爲家祿賞典給與ヲ沒收セラレタル者亦同シ

第二條 前條ノ給與ヲ受ケムトスル者ハ本法施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ其ノ理由及證據ヲ具シ地方廳ヲ經由シテ大藏大臣ニ願出ツヘシ

第三條 前條ノ願出ニ對シ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ指令ヲ受取リタル日ヨリ六箇月以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四條 本法施行以前ニ於テ願出ヲ爲シ又ハ出訴シタル者ハ本法ニ依リ願出又ハ出訴ト看做ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔中村又一君登壇〕

○中村又一君 只今上程ニナリマシタル家祿賞典給與未済ニ關スル法律案ニ付キマシテ、私ハ其提案理由ヲ簡單ニ説明申上ゲタイノデアリマス

本案ハ大正十二年以來本院ヲ通過スルコト既ニ七回ニ及ビ、何時モ滿場一致ノ御賛成ヲ得テ居ル案デアリノデゴザイマス、極ク簡單ニ説明ヲ致シタイノデアリマスルガ、大體ノ説明理由ハ提案理由書ニ詳細ニ認メテアルノデゴザイマス、即チ明治三年九月十日太政官布告藩制施行以後、家祿賞典給與有シタル者ニ對スル給與未済ノ中デ、明治九年太政官第百八號布告及同年十二月太政官第百五十二號布告施行以後ノ給與未済ニ付キマシテハ、明治三十年法律第五十號ニ依リテ給與ヲ爲シマシタケレドモ、明治三年九月十日太政官布告藩制施行ヨリ明治九年ニ至ル迄ノ間ノ給與未済ニ付キマシテハ、同法ノ範圍外ニ屬セルモノト致シマシテ給與ヲ爲サナカッタノデアリマス、是ハ同ジ給與未済デアリナガラ、法文ノ不備カラ致シマシテ、一方ヲ給與シ、他方ヲ給與セラレナイト云フコトハ、甚ダ不合理デアルト云フノデ、此給與未済ノ分ヲ此際給與セヨト云フノガ、本案提出ノ理由ニ相成ッテ居ルノデアリマス

此問題ハ長年問題デアリマシテ、其沿革ヲ簡單ニ考ヘテ見マスト、洵ニ同情措ク能ハザル事實ガアルノデアリマス、御承知ノ如ク舊徳川政權下ニ於キマシテ、武士團ガ一定額ノ祿高ヲ、ソレノ大名ヨリ給セラレテ居リマシタコトハ、皆サンモ御承知ノ通りデアリマスガ、明治變革ノ進行ト共ニ、彼等ハ其祿高カラ解放セラレザルヲ得ナカッタノデアリマス、即チ明治四年ノ廢藩置縣ニ依リマシテ、政府ハ是等ノ士族等ニ對シマシテ、家祿賞典給與ノ改革ヲ計畫致シマシタ、明治政府ガ續祿處分ヲ爲ス爲ニ

計算致シマシタ所ニ依リマス、其額ハ約三千四百六十二萬圓ヲ超エテ居リマスガ、是ハ當時ノ日本ノ財政ノ收入カラ見マスルト、地租ノ全年額分五千二百七十八萬圓ニ對シマシテ、六五%ニナツテ居ルノデアリマス、是等ノ龐大ナル負債ヲ明治政府ハ斷然ト致シマシテ解決スル爲ニ、此家祿處分ノ案ヲ決定シタノデゴザイマス、此方策ガ當時誤ツタト致シマスルナラバ、恐ラク國家財政ノ破綻、或ハ舊武士國ノ反抗トナリマシテ、恐ロシキ社會運動モ起ツコトダラウト考ヘルノデアリマス、此件ニ付キマシテ特ニ政府委員ニ御懇ヘ致シテ置キタイノハ、例ヘバ今日恩給ノ如キ年々増加ヲ致シ、今日ノ國家ノ財政ト比率的ニ考ヘマスル時ニ於テ、所謂此整理ノ問題、恩給ノ根本改革ノ問題ハ、非常ニヤカマシク國民ノ一部ニ於テハ考ヘラレテ居ルノデアリマス、即チ此場合ニ於テ、國家財政ヲ救フ爲ニ恩給ノ根本改革ヨリ、現在ノ既得權デアアル所ノ恩給權ヲ假ニ奪ツタト致シマスナラバ、現在恩給ヲ持チ、現在官吏トシテ其既得權ヲ期待セラレテ居ル所ノ政府諸公ハ、如何ナル御考ヲ御持チデアラマセウカ、當時ノ所謂武士國ノ士族ノ人達ハ、明治政府ノ大變革ニ際シマシテ、國家ノ財政ヲ救フ上ニ於テ、自分等ノ一家ヲ養フ所ノ、今日ノ所謂恩給ニモ匹敵スル其祿高ヲ、全部其政府ノ要求スル整理ニ委セマシテ、而シテ其祿高ノ整理ト云フモノガ實行セラレタノデアリマス、其當時ニ於テ整理ノ關係カラ洩レマシタ、其祿高ノ洩レタ部分ヲ給付セヨト云フノガ、本案ノ要旨ニナツテ居ルノデアリマス

デ申シマスルト、恩給ヲ國家財政ヲ救フ爲ニ全部國家ニ奉納スルト云フ意氣込ニ於テ、自分等ノ生活ヲ保障セラレテ居ル祿高ヲ、國家ノ整理ノ儘ニ御委セシタト云フ重大案件デアアルノデアリマス、此重大ナル犧牲ヲ以テ、此問題ガ無事ニ解決セラレテ居リマスニ拘ラズ、此案ノ施行ニ當リマシテ、明治四年ヨリ九年迄ニ於テ、其整理ノ公債ノ支拂ヲ、政府トシテ致サナカッタ部分ト云フモノガ、今日モ殘ツテ居リマス、此殘ツテ居ル所ノ部分ニ對シテ、今日苦シデ居ル所ノ、當時ノ所謂士族達ノ窮乏ヲ、此案提出ノ眼目ニナツテ居ルノデアリマス、詳シク申上ゲマスト非常ニ長クナリマス、問題デアリマス、長イ間會期毎ニ種々質問應答セラレタ所ノ速記録ヲ御覽ニナツテモ、政府ガ今日迄ノ御考ヲ御訂正ニナル所ノ理由ハ、幾多ノ諸君ニ依ツテ述ベ盡サレテ居ルノデアリ、何レ委員會デ詳論スルコトトシ、簡單ニ私ハ本問題ノ提案理由ヲ、申述ベマシテ、今回ハ是非トモ本期議會ニ、大藏省モ政府當局モ悉ク之ニ同意セラレマシテ、御同情ノ上此案ガ兩院ヲ通過スルヤウ御協力下サイマシテ、直チニ本案ガ成立致シマスルヤウニ希望致シマス、簡單ニ提案理由ヲ御説明申上ゲタ次第デアリマス、ドウカ滿場ノ諸君ノ御賛成ヲ切ニ御願致シテ置キマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 江藤源九郎君ヨリモ趣旨辯明補足ノ申出ガアリマス——江藤源九郎君ハ議席ニ居ラマセヌ、仍テ趣旨辯明ノ補足ノ申出ハ拋棄セラレタモノト認メマス、結城大藏大臣ヨリ發言ヲ求メラレマシタ——結城大藏大臣

(國務大臣結城豐太郎君登壇)

○國務大臣(結城豐太郎君) 只今上程セラレマシタ家祿賞典祿給與未濟ニ關スル法律案ニ對スル政府ノ意見ヲ申述ベマス、本法律案ニ對シマシテハ、是ガ第四十六議會ニ初メテ提出セラレマシテカラ以來、常ニ政府トシテハ之ニ同意シ難イ旨ヲ表示シテ參ツタノデアリマスガ、今日ニ於キマシテモ、政府ハ依然之ニ同意スルコトガ出來ナイノデアリマス、其理由ノ詳細ニ付キマシテハ、委員會ニ於テ政府委員ヨリ申述ブルコトト致シマシテ、茲ニハ其大要ヲ申上ゲマス、所謂金祿公債處分ナルモノハ、從來ノ祿高制度ヲ全廢スルコトヲ前提ト致シマシテ、其救済方法トシテ、各人ノ祿高ヲ基準トシテ、一定額ノ公債ヲ給與シタルモノデアリマス、而シテ明治三十年ノ家祿賞典祿處分法ハ、金祿公債處分ノ際ニ支給致シマシタ所ノ、公債ノ元本金額ニ付テ不足アルモノニ對シテ、其不足分ヲ追給スル趣旨ノ法律デアリマシテ、金祿公債處分以後毎年ノ給與ノ不足分ニ對シ追給ヲ爲ス法律デアリマセヌ、故ニ法律案提出ノ根本理由トナツテ居ル點、即チ金祿公債處分以後毎年ノ給與不足分ハ、明治三十年ノ家祿賞典祿處分法ニ依リ追給サレマシタガ、明治三年藩制施行ヨリ明治九年ニ至ルマデノ間ノ毎年ノ給與不足分ハ、未ダ追給サレテ居ラナイカラ、此分ニ對シテモ追給ヲ爲スベキデアルト主張ハ、之ヲ承認スルコトガ出來ナイノデアリマス、次ニ此法律案ニ依リ、其不足分ヲ救済セントスル明治初年ノ祿ナルモノハ、今日ノ俸給類似ノ國家ニ對スル債權デアリマシテ、國家ニ對スル他ノ一般債權ト性質上何等異ル所ガアリマセヌ、斯ノ如キ普通ノ債權ヲ、六十年後ノ今日ニ於テ、是ガ復活ヲ認メルト云フコトニナリマスレバ、一般ノ權利關係ニ付テ法律上時効制度ヲ認メマシタ精神ヲ、全ク忘却スルコトナルノデアリマス、又秩祿處分ノ從來ノ沿革カラ見マシテモ、大正八年ニ秩祿ニ關スル法律第三十四號ノ制定サレマスルニ當リ、秩祿

處分ニ關スル救済ハ、之ヲ以テ最後トナス旨議場ニ於テ言明セラレタノデアリマシテ、今日更ニ秩祿問題ヲ取上ゲマスコトハ、妥當デナイト考ヘマス、更ニ之ヲ單純ニ救済問題トシテ見マシテモ、當時ノ關係者ハ、或ハ祿ノ給與ニ不足ガアツテ困窮シテ居タト致シマシテモ、六十年後ノ今日マデ、必シモ當時ノ狀態ヲ其儘繼續シテ居ルハ考ヘラレナイノデアリマス、以上ノ次第デアリマスルカラ、政府ト致シマシテハ、此法律案ニ對シマシテ遺憾ナガラ同意スルコトハ出來ナイノデアリマス

○議長(富田幸次郎君) 別ニ質疑ハアリマス

○中山福藏君 日程第五十七ハ日程第三十ト關聯セル議案ナルニ依リ此際之ヲ議題トシ、其旨辯明ヲ許サレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 中山君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、日程第五十七、郷又ハ町村祿高ニ對スル公債證書給與ニ關スル法律案ヲ一括議題ト致シマス、趣旨辯明ヲ許シマス——提出者寺田市正君

第五十七 郷又ハ町村祿高ニ對スル公債證書給與ニ關スル法律案(寺田市正君外三名提出) 第一讀會

第一條 明治三年九月十日太政官布告藩制施行以後祿高ヲ有シタル郷又ハ町村ニシテ其ノ祿高ニ對スル公債證書ノ給與ヲ受ケサル者及其ノ給與ニ不足アル者ニ對シテハ明治三十年法律第五十號家祿賞典祿處分法並明治三十二年法律第八十四號家祿賞典處分法施行行法ヲ準

用シ明治三年九月十日以後ノ祿高ニ對スル公債證書給與未済額ヲ祿高整理ノ爲發行スル公債證書ヲ以テ給與ス

第二條 前條ノ給與ヲ受ケムトスル者ハ本法施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ其ノ理由及證據ヲ具シ地方廳ヲ經由シテ大藏大臣ニ願出ツヘシ

第三條 前條ノ願出ニ對シ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ指令ヲ受取リタル日ヨリ六箇月以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(寺田市正君登壇)

○寺田市正君 昨ハ只今上程サレマシタ郷又ハ町村祿高ニ對シ公債證書給與ニ關スル法律案提出ノ理由ヲ申上ゲマス、本案ハ只今此席デ中村又一君ガ御説明ニナリマシタ、家祿賞典祿給與未済ニ關スル法律案ト大體同一趣旨ノモノデゴザイマスガ、アノ案ダケデハ獨リ私ノ鹿兒島藩ノミガ恩典ニ浴スルコトガ出來ナイコトニナツテ居リマスノデ、ソコデ御面倒デゴザイマスガ、別ニ此案ヲ提出致シマシテ、諸君ノ御協賛ヲ御願申上グル次第デアリマス、今其理由ヲ極メテ簡單ニ申上ゲマス、本案ハ明治三年九月十日、太政官布告藩制施行以後祿高ヲ有シタル郷又ハ町村ニシテ、其祿高ニ對スル公債證書給與ヲ受ケザル者、及ビ其給與ニ不足アルモノニ對シテハ、明治三十年法律第五十號家祿賞典祿處分法、並ニ明治三十二年法律第八十四號家祿賞典祿處分法施行法ヲ準用シテ、明治三年九月十日以後ノ祿高ニ對スル公債證書給與未済額ヲ、祿高整理ノ爲ニ發行スル公債證書ヲ以テ給與サレタシトノ趣旨デゴザイマス、御承知ノ通り舊藩中ニ於キマシテ、當時ノ郷、即チ今日ノ町村ガ祿高ヲ有シマシタル例ハ、鹿兒島藩ノミデアリマス、舊鹿兒島藩ニ於テハ、

舊藩中各郷士族卒ノ祿高ヨリ、軍役高又ハ協力高ト稱シマシテ、各郷ニ之ヲ積立テ、明治九年ニ至ルマデ、其高ニ對スル所務米ヲ領收致シマシテ、現今ノ所謂常備軍ノ費用トシテ使用致シテ居リタリデアリマスガ、廢藩後ハ郷ニ於テ設立シタル學校ノ資金トカ、或ハ神社ノ祭祀其他郷ノ經費ニ之ヲ使用致シテ居リマス、故ニ他藩ノ士族卒ノ祿高ト同ジク、明治九年第八號及ビ第五十二號布告ニ依ル公債處分ヲ受クベキモノデアアルコトハ勿論デアリマス、然ルニ明治四年士族卒祿高取調帳ニ、誤ッテ右各郷ノ協力高ノ總高ヲ、一万七千餘石トシマシテ届出シタル爲ニ、之ニ對シテハ給與ヲ受ケマシタケレドモ、當時多數ノ届漏レガアリマシタノデ、爾來各郷士族卒ヨリ其給與ヲ請願致シマシテ、殊ニ明治二十四年中ニハ檢地帳、其他多數ノ證據書類ニ依リマシテ、詳細ナル調査ヲ致シマシテ、縣知事ニ於テモ其計算ノ内容ヲ調査致シマシテ、多數ノ届漏レアルコトヲ認メマシタノデ、其處分方ヲ大藏大臣ニ願出マシタノデゴザイマスガ、大藏省ハ言フ左右ニシテ何等ノ給與ヲ致シマセス、ソコデ各藩ニ檄ヲ飛バシテ、大ニ協力シテ一層真相ヲ調査シ、且ツ帝國議會ニ請願致シマシタ結果、漸ク識者ノ認ムル所トナリマシテ、遂ニ明治三十年法律第五十號家祿賞典祿處分法、次デ明治三十二年法律第八十四號家祿賞典祿處分法施行法ト云フ、此二ツノ法律發布ヲ見タノデアリマス、仍テ此等ノ法律ニ基キマシテ、各藩士族卒ヨリ大藏大臣ニ請願致シマシタ所ガ、佐賀、福岡、松山、福井、福島等、其他各藩ノ士族卒ニ對シマシテハ、ソレハ公債ヲ給與致シマシタ、其總額ハ約五百万近キ額ニ達シテ居リマス、然ルニ是ガ率先提唱致シマシテ、大イニ調査協力シテ、此二ツノ法律ヲ發布ヲ見ルニ大ナル努力ヲ拂ヒマシタ舊鹿兒島藩ノ士族卒ノミガ、獨リ

未ダ何等ノ恩典ニ浴スルコトノ出來ナイノハ甚ダ以テ遺憾ニ堪ヘザル次第デゴザイマス、何故ニ斯ノ如ク獨リ鹿兒島藩ノミガ、他藩ト異リテ家祿賞典祿ノ給與ヲ受クルコトノ出來ナイコトトナリマシタカト申シマスレバ、ソレハ即チ行政裁判所ニ於キマシテ、鹿兒島藩ノ士族卒ノ家祿賞典祿ハ他ノ藩ト異ツテ、協力高又ハ軍役高ト稱シテ、郷ナル團體ノ祿高デアツテ、士族卒ノ其者ノ祿デナイカラト云フ理由ヲ以テ、大正十一年十二月十八日附却下ノ判決ヲ致シテ居ルカラデゴザイマス、此判決ガアル爲メ、他藩同様ニ公債給與ヲ受ケラレヌノデアリマス、加之該判決ニ於テハ、協力高ハ明治四年士族卒祿高取調帳記載ノ一万七千石以外ニ届漏レナキ旨ヲモ判決ヲ下シテ居ルノデアリマス、然ルニ其後他ノ事件ノ爲ニ、鹿兒島縣廳ヨリ行政裁判所ニ取寄セマシタ證據書類中ニ於テ、明治二十四年縣知事ガ確認致シマシタル願書附屬ノ證據書類、及ビ其計算書ノ内容ニ依リマシテ、各郷ニ互ッテ多數ノ届漏高アルコトヲ發見致シマシタノデ、最早今日ニ於テハ疑フノ餘地ナキ確認ガ現存シテアルノデアリマス、斯ノ如キ次第デ、鹿兒島藩ノ家祿賞典祿ハ他藩ト異ツテ、一種特別ノ郷ナル團體、即チ今日ノ町村ニ歸屬スル祿高ト云フコトニ、行政裁判所ノ判決デ斷下シマシタノデ、ソコデ對シ、公債證書給與ニ關スル法律案ヲ提出シナケレバナラヌコトトナツタ譯デアリマス、先刻中村君ガ御述ニナツタ家祿賞典祿給與未済ニ關スル法律ト大體同趣旨デアリマスガ、アノ案ハ御説明ニナツタ通り、各藩ノ士族卒個人ヨリ願出デ、既ニ明治十年以降十箇年間ノ分ハ公債ノ給與ヲ受ケタケレドモ、尙ホ明治三年以降明治九年マデノ分ガ給與未済ニナツテ居ルカラ、之ヲ給與サレタシトノ趣旨デアツタノデアリマスガ、私ノ

此本案ハ前述ノ通り、獨リ鹿兒島藩ノミガ一種特別ノ制度デアツテ、郷ノ祿高デアルト云フコトデ、鹿兒島藩ノ舊士族卒ヨリ願出タルモノニ對シテハ受クルコトガ出來ナカッタノデゴザイマスカラ、此法律ヲ御制定願ヒマシテ、他藩同様、即チ家祿賞典祿ト云フモノニ對スル公債ノ給與ヲ御願シタイト云フノガ、本案ノ趣旨デゴザイマス

既ニ本院ニ於キマシテモ、第五十六議會以來屢、請願、建議等ガ通過致シマシテ、更ニ又第六十四議會及ビ第六十五議會、第六十七議會等、三回モ本法律案其儘一字一句ノ變化ナク、可決通過致シテ居ルノデアリマスカラ、今回モ何卒速ニ本案ノ御協賛アラシコトヲ切望致シテ已マヌ次第デアリマス

○議長(富田幸次郎君) 此際結城大藏大臣ガ發言ヲ求メラレマシタ——結城大藏大臣(國務大臣結城豊太郎君登壇)

○國務大臣(結城豊太郎君) 只今上程セラレマシタ郷又ハ町村祿高ニ對スル公債證書給與ニ關スル法律案ニ對シマシテモ、政府ト致シマシテハ、遺憾ナガラ同意致スコトガ出來ナイノデアリマス、其反對ノ理由ハ、家祿賞典祿給與未済ニ關スル法律案ニ付テ述ベマシタ所ト、共通ノ點ガ多イノデアリマシテ、假ニ當時給與不足ガアツタト致シマシテモ、今日ニ是ガ救済ヲ圖ルコトハ、適當トハ認メラレナイノデアリマス、加之此法律案ノ目的トシテ居リマス所ノ、鹿兒島藩ノ郷祿高ニ付キマシテハ、既ニ大正十一年ノ行政裁判所ノ判決ヲ以テ、鹿兒島藩ノ協力高ハ明治四年届出ノ祿高帳記載ノモノノデアリマス、隨テ若シ此法律案ニ依リマシテ、此事件ヲ再ビ取上ゲルコトニナリマシレバ、行政裁判所ノ確定判決ニ對シテ、再審理ノ途ヲ開クコトニナルノデアリマシテ、斯ノ如キコトハ今日ノ行政裁判法ノ趣

旨カラ考ヘマシテモ適當デナイト思フノデアリマス、尙ホ反對ノ理由ノ詳細ニ付キマシテハ、委員會ニ於テ政府委員カラ申述ベ
ルコトニ致シマス

○議長(富田幸次郎君) 別ニ質疑ハアリマ
セヌ

○中山福藏君 日程第三十及ビ第五十七ノ
兩案ヲ一括シテ、議長指名九名ノ委員ニ付
託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 中山君ノ動議ニ御
異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程
第三十三及ビ第三十四ハ同種ノ議案デアリ
マスカラ、一括議題ト爲スニ御異議アリマ
セヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ日程第三十三、刑法中改正法律
案、日程第三十四、刑法中改正法律案、右
兩案ヲ一括シテ第一議會ヲ開キマス、順次
提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者中
山福藏君

第三十三 刑法中改正法律案(中山福

藏君外二名提出)

第三十四 刑法中改正法律案(牧野賤

男君外八名提出)

刑法中改正法律案

刑法中左ノ通改正ス

第二十五條中「二年以下」ヲ「三年以下」ニ

改ム

第二十五條ノ二 左ニ記載シタル者罰金

ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁

判確定ノ日ヨリ一年以上三年以下ノ期

間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

一 前ニ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル

コトナキ者

二 前ニ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル
コトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行
ノ免除ヲ得タル日ヨリ五年以内ニ罰
金以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ
者

第二十六條中「刑ノ執行猶豫」ヲ「懲役又
ハ禁錮ノ執行猶豫」ニ、「前條第二號」ヲ

「第二十五條第二號」ニ改ム

第二十六條ノ二 左ニ記載シタル場合ニ

於テハ罰金ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス

可シ

一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ罰金以

上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ

付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルト

キ

三 第二十五條ノ二第二號ニ記載シタ

ル者ヲ除ケタル猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ

付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルコ

ト發覺シタルトキ

刑法中改正法律案

刑法中左ノ通改正ス

第二十五條中「二年以下」ヲ「三年以下」ニ

改ム

第二十五條ノ二 左ニ記載シタル者罰金

ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁

判確定ノ日ヨリ一年以上三年以下ノ期

間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

一 前ニ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル

コトナキ者

二 前ニ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル

コトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行

ノ免除ヲ得タル日ヨリ五年以内ニ罰

金以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ

者

第二十六條中「刑ノ執行猶豫」ヲ「懲役又

ハ禁錮ノ執行猶豫」ニ、「前條第二號」ヲ

「第二十五條第二號」ニ改ム

第二十六條ノ二 左ニ記載シタル場合ニ

於テハ罰金ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス
可シ

一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ罰金以

上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ

付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルト

キ

三 第二十五條ノ二第二號ニ記載シタ

ル者ヲ除ケタル猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ

付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルコ

ト發覺シタルトキ

(中山福藏君登壇)

○中山福藏君 現行法ハ二年以下ノ懲役又

ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケマシタル者ニ對シテ、

刑ノ執行ヲ猶豫シ得ルコトヲ規定致シテ居

リマスケレドモ、斯クテハ執行猶豫ノ範圍

狹小デアツテ、實際ノ必要ニ適合セヌ嫌ガア

リマスノデ、三年以下ノ懲役禁錮又ハ罰金

ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シマシテモ、其刑

ノ執行ヲ猶豫スルノガ適切妥當ダト信ズル

ノデアリマス

御承知ノ通りニ執行猶豫ト云フモノハ體

刑ニ限ルノデアリマス、故ニ罰金刑ニハ執

行猶豫ハナイノデアリマス、本案ハ罰金刑

ニモ此恩惠ヲ擴大シテ、其ノ制度ヲ設ケヨ

ウト云フノデアリマス、何故罰金刑ニ執行

猶豫ガナイカト云フト、罰金刑ト云フモノ

ハ、體刑ヨリモ其刑輕ク、執行猶豫ヲ與ヘ

ズトモ差支ナカラウト云フコトニ出發致シ

テ居ルノデアリマスガ、罰金ヲ納メルコト

ガ出來ストキニハ、之ヲ體刑ニ換刑シ得ル

ノミナラズ、而モ結果ニ於キマシテ、重キ

體刑ヲ受ケタル人ハ、執行猶豫期間滿了ト

共ニ全然無垢ノ人トナルニ拘ラズ、罰金刑

ニ處セラレテ金ヲ納メテモ、前科者ト云フ

痕跡ヲ留メルヤウニ現在ハナッテ居ルノデ

アリマス、斯クテハ森嚴ナル法ノ威信ニモ

係ハリ、刑罰量定ノ矛盾トモナルノデアリ

マスカラ、現行法ノ第二十五條以下關係法

條ノ一部ヲ改正致シタイト存ジテ、本案ヲ
提出シタ所以デアリマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 牧野賤男君

○牧野賤男君 簡單デゴザイマスカラ此席

ヨリ御許ヲ願ヒマス

○議長(富田幸次郎君) 許可致シマス

○牧野賤男君 吾々ノ提出致シテ居リマス

ル刑法中改正法律案ハ、只今ノ提出者ノ趣

旨辯明ト全ク同一デアリマスルカラ、便宜

上私ノ御説明ニソレヲ援用致シマス、之ヲ

以テ提案ノ趣旨ト致シマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御質疑ハアリ

マセヌ

○中山福藏君 日程第三十三及ビ第三十四

ノ兩案ハ一括シテ、政府提出、裁判所構成法

中改正法律案外二件委員ニ併セ付託セラレ

ンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 中山君ノ動議ニ御

異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メ

マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第三

十九、樺太ニ衆議院議員選舉法施行ニ關ス

ル法律案ノ第一議會ヲ開キマス、提出者ノ趣

旨辯明ヲ許シマス——提出者石坂豐一君

第三十九 樺太ニ衆議院議員選舉法施

行ニ關スル法律案(石坂豐一君外四

名提出)

樺太ニ衆議院議員選舉法施行ニ關スル

法律案

衆議院議員選舉法別表中北海道第五區ノ

次ニ左ノ一項ヲ加フ

樺太 三人

附則

本法施行ノ期日並施行ニ關スル規定ハ勅

令ヲ以テ之ヲ定ム

刑法中改正法律案外一件 樺太ニ衆議院議員選舉法施行ニ關スル法律案

〔石坂豐一君登壇〕

○石坂豐一君 極メテ簡單ニ提案ノ趣旨ヲ
辯明致シタイト存ジマス、皆御承知ノ如
ク、樺太ハ領有以來三十年ノ歲月ヲ閱シマ
シテ、今ヤ人口ガ三十三万ニ達シテ居ル
デアリマス、當時生レタ人ガ既ニ三十一歳
ニナッテ居ルデアリマス、自治制、徴兵令、
戸籍法、總テノ法律ガ此地ニ實施サレテ居
ルデアリマス、獨リ選舉法ダケ取
除ケニナッテ居ルデアリマス、昨年本
院及ビ貴族院ヲ通過致シマシテ、法律
第一號トナッテ發布セラレマシタル、樺太市
制案ナルモノガ發布サレテ居リマス、此市
制案ニ依リマス、衆議院議員選舉法ノ
罰則ガ全部準用サレルコトニナッテ居ル
デアリマス、勿論自治體ニ於ケル所ノ議員
選舉ニ對シテ、衆議院議員選舉ノ罰則ヲ準
用シテ居ルデアリマス、併シ考
ヘテ見マス、ト云フト、選舉ニ付テ法ニ觸
レタル者ハ監獄ヘ入レル、罰金ヲ取ルト云
フコトダケハ準用スルケレドモ、肝腎ノ議
員ノ選舉權ダケハ與ヘヌト云フ、理不盡ナ
ルコトハナイト考ヘルデアリマス、諸君、
此法律ハ樺太住民ガ多年此政治生活ノ上ニ
大ナル差別待遇ヲ受ケテ居ルコトヲ不滿ト
致シマシテ、本院ニ度々請願シ、又本院ノ
中カラモ提案サレマシテ、第五十一議會ニ
於キマシテモ提案サレテ居リマス、第五十
二議會、第五十六議會、第五十九議會ニ於
キマシテハ、何レモ本院ヲ通過シテ居ル
デアリマス、今回ハ是デ五回目ニ當ルデア
リマス、昨年市制第三十年記念ノ博覽會
ガアリマシテ、當院ノ中ヨリ吾々同僚ノ方
ガ多數彼地ニ渡ラレマシテ、實ニ此地ニ衆
議院議員選舉法ヲ實施セスト云フコトハ、
洵ニ遺憾ナコトデアルト云フコトヲ異口同
音ニ申サレマシテ、今回吾々同僚五名ガ提
案者トナッテ、實ハ政民兩黨共同シテ本案ヲ
提出シテアル次第デアリマス、ドウゾ皆様

方ノ御協賛ヲ經マシテ、速ニ彼地ニ於テ參
政權ヲ與ヘルト云フコトノ途ヲ開キタイト
考ヘルノデアリマス、滿場諸君ノ御贊同ヲ
仰ギタイト存ジマス(拍手)
○議長(富田幸次郎君) 別ニ御質疑モアリ
マセヌ

○中山福藏君 本案ハ政府提出、樺太市制
案委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 中山君ノ動議ニ御
異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第
四十七、蠶絲業組合法中改正法律案ノ第一
讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シ
マス——提出者清水留三郎君

第四十七 蠶絲業組合法中改正法律案
(清水留三郎君外一名提出) 第一讀會

蠶絲業組合法中改正法律案

第一條第三號ヲ第四號トシ以下順次繰下
ケ同條第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

三 繭賣買業組合

第七條第一項中「蠶種業組合」ノ下ニ「繭
賣買業組合」ヲ加フ

第四十五條ノ次ニ左ノ如ク加フ

第四節 繭賣買業組合

第四十五條ノ二 繭賣買業組合ハ其ノ目
的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フ

一 繭取引方法ノ改善及統一ニ關スル
施設

二 繭取引ニ關スル研究及調査

三 繭取引ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲
裁
四 前各號ニ掲グルモノノ外繭取引ノ
改良發達及統制ヲ圖ルニ必要ナル施
設

第四十五條ノ三 繭賣買業組合ノ地區ハ
道府縣ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事由アル
トキハ此ノ區域ニ依ラザルコトヲ得

第十七條第二項ノ規定ハ前項ノ區域ニ
増減アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條ノ四 繭賣買業組合ハ其ノ地
區内ニ於テ繭ノ賣買又ハ其ノ仲立若ハ
取次ヲ業トスル者ヲ以テ其ノ組合員ト
ス

第四十五條ノ五 第二十七條乃至第二十
九條及第三十一條乃至第四十條ノ規定
ハ繭賣買業組合ニ之ヲ準用ス

第一章第四節ヲ第五節トシ同章第五節ヲ
第六節トス

第五十七條第四號ヲ第五號トシ以下順次
繰下ケ同條第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四 全國繭賣買業組合聯合會

第六十一條第一項中「全國蠶種業組合聯
合會」ノ下ニ「全國繭賣買業組合聯合會」
ヲ加フ

第六十二條第三項中「全國蠶種業組合聯
合會ハ蠶種業組合ヲ以テ」ノ下ニ「全國
繭賣買業組合聯合會ハ繭賣買業組合ヲ以
テ」ヲ加フ

第六十八條第一項但書中「第五十七條第
二號乃至第七號」ヲ「第五十七條第二號乃
至第八號」ニ改ム

第七十四條第一項中「第五十七條第二號
乃至第七號」ヲ「第五十七條第二號乃至第
八號」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○清水留三郎君 簡單デゴザイマスカラ自
席ヨリ發言ヲ御許シ願ヒマス

○議長(富田幸次郎君) 許可致シマス

○清水留三郎君 只今上程サレマシタ蠶絲
業組合法中改正法律案ハ、政民有志議員共
同提案デアリマシテ、提案者ヲ代表シテ私
ヨリ提案理由ノ説明ヲ致シマス、現行ノ蠶

絲業法ハ、其第一條ニ於キマシテ「本法ニ
於テ蠶絲業者ト稱スルハ養蠶、蠶種製造、
生絲製造、眞綿製造、殺蛹乾繭又ハ蠶種、
繭、生絲、屑物類ノ賣買、仲立若ハ保管ヲ
業トスル者ヲ謂フ」ト規定シテ、法ノ運用
ヲ均霑セシメテ居ルデアリマス、即チ繭
賣買業者ヲ蠶絲業者トシテ公式ニ認メテ居
ルデアリマス、然ルニ蠶絲業組合法ノ第
一條ニ依リマス、蠶絲業組合ハ左ノ六
種トス「トシテアリマシテ、一養蠶業組合、
二蠶種業組合、三產業組合製絲組合、
四製絲輸出業組合、五生絲問屋業組合、六
生絲輸出業組合」ニ限定シマシテ、繭賣買
業組合ト云フモノヲ蠶絲業組合カラ除外シ
テ居ルデアリマス、是ハ法制ノ不統一、
不整備ヲ招來シテ居ルノミデハナク、等シ
キ蠶絲業ノ關係團體ニ對シ、其取扱ヲ異ニ
シテ居ル不公平ノ甚シイモノデアリマス、
是ガ爲ニ各蠶絲業諸機關トノ間ニ於キマシ
テ、連絡ヲ缺キ、協調ヲ妨ゲ、我國蠶絲業
ノ發達ヲ阻碍スルコト少カラザルデアリ
マス、現在繭賣買業者ハ、町村又ハ郡市
ヲ單位トスル組合ヲ設ケ、府縣ニハ聯合會
アリ、更ニ全國ヲ統一スル全國繭絲賣買業者
ノ聯合會ガ存在シテ居ルデアリマス、然
ルニ蠶絲業ノ綜合團體タル日本中央蠶絲會
ニ參加スルコトガ出來ズ、其意圖ヲ中央ニ
述ブルコトガ出來ズ、全ク孤立ノ狀態ニ置
カレテ居ルデアリマス、彼ノ產繭處理統
制法案ガ第六十八、六十九、兩議會ニ於テ
審議セラレタ際、全國ノ繭賣買業者ガ猛然
起ッテ大反對ノ運動ヲ起シタノハ、政府ガ產
繭賣買業者ノ意見ヲ、事前ニ聞クコト能ハ
ザリシ結果ナノデアリマス、即チ政府ハ該
案ヲ日本中央蠶絲會ニ諮問シタ、併シ蠶絲
業組合法ニ依リ、繭賣買業組合全國聯合會
ガ日本中央蠶絲會ニ參加スルコトガ出來マ
セヌ結果、遂ニ此紛糾ヲ生ジタノデアリマ
ス、原蠶種管理法、產繭處理統制法ヲ實施

スルニ當リ、蠶絲業者ヲ團體的ニ統一スルノデナケレバ、眞ノ統制ハ不可能ト思ハレマス、産繭處理統制法ノ施行規則第三條ニ依リマス、「特約取引ノ賣方ハ養蠶實行組合又ハ産業組合、買方ハ製絲業者、繭賣業者又ハ蠶絲共同施設組合タルコトヲ要ス」云々ト明記サレテ居ルノデアリマス、即チ繭賣業者ハ産繭處理統制法ニ於テモ、其主要ナル機關ノ一デアリコトハ、法律ニ依ッテ之ヲ公ニ認メテ居ルノデアリマス、故ニ蠶絲業者組合ヲ改正致シマシテ、第一條ノ六種ヲ「繭賣業者」ヲ加ヘテ七種トシテ、更ニ之ニ關聯セル條文ヲ改正シテ、蠶絲業ニ關スル各種團體ヲ立體的ニ統制シテ、蠶絲業ノ圓滿ナル協調ヲ圖リ、健全ナル發達ヲ期スルコトガ、最モ合理的ナル處置ト信ズルノデアリマス、是レ本改正案ヲ提出シタ所以デアリマス、何卒御賛同ヲ願ヒマス

○議長(富田幸次郎君) 門田新松君ヨリ趣旨辯明補足ノ申出ガアリマス——門田新松君——門田君ハ議席ニ居ラレマセス、仍テ趣旨辯明ノ補足申出ハ拋棄シタモノト認メマス——別ニ質疑ハアリマセス

○中山福壽君 本案ハ政府提出、農村負債整理資金特別融通及損失補償法案委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 中山君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第四十八、傷痍軍人及戰公傷病死者遺族等ノ鐵道船舶等乗車船優遇ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者 蔭山貞吉君

第四十八 傷痍軍人及戰公傷病死者遺族等ノ鐵道船舶等乗車船優遇ニ關スル法律案(中村又一君外五名提出)

第一讀會

官報轉外 昭和十二年三月二十八日 衆議院議事速記第三十三號

傷痍軍人及戰公傷病死者遺族等ノ鐵道船舶等乗車船優遇ニ關スル法律案

傷痍軍人及戰公傷病死者遺族等ノ鐵道船舶等乗車船優遇ニ關スル法律案

傷痍軍人及戰公傷病死者遺族等ノ鐵道船舶等乗車船優遇ニ關スル法律案

第一條 本法ニ於テ鐵道トハ國有鐵道(連絡船ヲ含ム)、一般交通ノ用ニ供スル地方鐵道及軌道並南滿洲鐵道株式會社所屬ノ鐵道ヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ船舶トハ一般交通ノ用ニ供スル爲航路ヲ定メ定期ニ航行シテ旅客ヲ運送スル船舶ニシテ命令ヲ以テ指定スルモノヲ謂フ

第三條 傷痍軍人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ無賃ニテ鐵道ニ乗車スルコトヲ得

第四條 傷痍軍人ニシテ傷痍、疾病又ハ老齡ノ爲他人ノ扶助ヲ要スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ附添人一名ヲ限リ無賃ニテ之ヲ同伴スルコトヲ得

第五條 戰公傷病死者ノ遺族ハ命令ノ定ムル所ニ依リ靖國神社大祭若ハ招魂祭參拜ノ爲又ハ遺骨出迎受領ノ爲旅行スルトキハ其ノ往復ニ限リ無賃又ハ旅客運賃ノ五割引ニテ鐵道ニ乗車スルコトヲ得

第六條 第三條及第五條ニ掲クル者船舶ニ依リ旅行スル場合ニ於テ本法ノ規定ニ依リ無賃ニテ乗車シ得ル旅行ニ相當スルトキハ旅客運賃ノ五割引、五割引運賃ニテ乗車シ得ル旅行ニ相當スルトキハ旅客運賃ノ二割五分引ニテ乗船スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(蔭山貞吉君登壇)

○蔭山貞吉君 昨ハ只今上程サレマシタル傷痍軍人及戰公傷病死者遺族等ノ鐵道船舶等乗車船優遇ニ關スル法律案ノ理由ヲ説明シタイト思ヒマス、國軍ノ士氣ヲ振作シ、又完全ニ其威力ヲ發揮セシメル爲ニハ、戰闘又ハ任務遂行ニ當リ死傷シ、或ハ負傷ヲ受ケタル者ニ對シ、後顧ノ憂ナカラ

シムルコトガ必要デアリマス、恩給ヲ給スルコトハ最モ有效ナル方法デアリマスガ、之ニ加フルニ各種ノ精神的、物質的優遇ヲ與フルコトハ、又現下ノ社會狀態上必要デアリマス、本案ハ此趣旨ヲ一部達成シ、而モ政府及ビ鐵道船舶業者ノ受ケル負擔モ敢テ大デナイト思ヒマス、而シテ實質的ニハ非常ニ效果ガアルモノト思ヒマスカラ、洵ニ時勢ニ適合セルモノデアルト思フノデアリマス、案ノ内容ヲ極ク簡單ニ申シマス、

傷痍軍人ノ要スル無賃鐵道乘車デアリマス、又傷痍軍人ノ身體ガ動カナイ、或ハ老齡デアル、サウ云フ者ニ對シテ、他人ノ扶助ヲ要スル場合ニハ、扶助者ニモ無賃乘車ヲ許サレタイ、又ソレ等ノ戰公傷病死者ノ遺族ニ對シテ、招魂祭ノ際ニ、或ハ又遺骨ヲ迎ヘニ出ル場合ニ於テハ、是モヤハリ同様ノ待遇ヲ與ヘラレタイ、大體斯ウ云フヤウナ趣旨デアリマス、何卒諸君ノ御賛同ヲ希フ次第デアリマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 中村又一君並ニ江藤源九郎君ヨリ趣旨辯明補足ノ申出ガアリマス、順次之ヲ許シマス——中村又一君

○中村又一君 自席ヨリ御許シ願ヒマス

○議長(富田幸次郎君) 許可致シマス

○中村又一君 只今蔭山氏ヨリ詳細ナル御説明ガゴザイマシタカラ、極ク簡單ニ補足致シタイト思フノデアリマス、戰死者ノ遺族、又傷痍軍人等ニ對シマス所ノ、鐵道船舶等乗車船優遇ニ關スル所ノ法律案デアリマスガ、今回陸軍省ヨリハ徵兵令ノ改正法案ナドモ出テ居ルノデアリマス、例ヘバ五尺ニ足ラス所ノ小男デモ、ドン／＼兵隊ニ徵兵スルコトガ出來ル、一旦緩急アル場合ニ於キマシテハ、或ハ百万ノ人間ヲ動員シ或ハ三百万ノ人員ヲ動員シ、或ハ五百万ノ兵隊ノ動員モ出來ルト云フガ如キ、可ナリノ聲デモ宜シイ、可ナリノ近眼デモ宜シイト云フヤウナ程度ニ迄モ、改革セラレントス

○議長(富田幸次郎君) 中村又一君並ニ江藤源九郎君ヨリ趣旨辯明補足ノ申出ガアリマス、順次之ヲ許シマス——中村又一君

○議長(富田幸次郎君) 許可致シマス

○中村又一君 只今蔭山氏ヨリ詳細ナル御説明ガゴザイマシタカラ、極ク簡單ニ補足致シタイト思フノデアリマス、戰死者ノ遺族、又傷痍軍人等ニ對シマス所ノ、鐵道船舶等乗車船優遇ニ關スル所ノ法律案デアリマスガ、今回陸軍省ヨリハ徵兵令ノ改正法案ナドモ出テ居ルノデアリマス、例ヘバ五尺ニ足ラス所ノ小男デモ、ドン／＼兵隊ニ徵兵スルコトガ出來ル、一旦緩急アル場合ニ於キマシテハ、或ハ百万ノ人間ヲ動員シ或ハ三百万ノ人員ヲ動員シ、或ハ五百万ノ兵隊ノ動員モ出來ルト云フガ如キ、可ナリノ聲デモ宜シイ、可ナリノ近眼デモ宜シイト云フヤウナ程度ニ迄モ、改革セラレントス

○議長(富田幸次郎君) 中村又一君並ニ江藤源九郎君ヨリ趣旨辯明補足ノ申出ガアリマス、順次之ヲ許シマス——中村又一君

○議長(富田幸次郎君) 許可致シマス

ル今日ニナッテ居ルノデアリマス、是ハ正シク歐洲ノ戰爭ニ付テ考ヘマス、獨逸ハ八十万常備兵ヲ四百七十五万人動員シテ居ル、又佛蘭西ノ如キモ七十五萬ノ常備兵ガ、此戰爭ニ於キマシテハ第一線ニ四百六十萬人ヲ動員致シテ居ルノデアリマス、斯ノ如キ事態カラ推想シマス、今目前ニ迫レル所ノ非常時ヲ豫想シマシテ、日本モヤハリ四尺八寸位ノ人間モ兵ニ徵ラナケレバ相成ラスト云フコトニナリツ、アルノダラウト思フ、斯ウ云フ場合ニ於テ法律ニ依ッテドン多數ノ兵隊ヲ作ルト云フコトハ出來マスケレドモ、此兵隊ガ妻子眷族ヲ忘レ、戰場ノ第一線ニ立ッテ戰フ時ノ、アノ慘憺タル狀況ヲ私ハマザ／＼ト想像スルコトガ出來ルノデアリマス、私ハ平常ノ場合ニ於テモ、戰後は等戰死者ノ遺族ノ優遇、或ハ戰場ニ於テ傷イテ片輪ニナツタ所ノ者ニ對スル優遇方法ヲ、法律ノ力ニ依ッテ制定サレテ置クト云フコトハ、軍人ノ精神作興ノ上ニ於テモ、最モ重大ナル關係ガアルト思フノデアリマス、又一面ニ於キマシテ、例ヘバ鐵道省ノ従業員ノ如キ——私ハ敢テ燒餅ヲ燒ク者デアリマセスケレドモ、二十萬ノ従業員ノ悉クノ家族ガ「バス」ヲ持ッテ鐵道ノ乘廻シガ出來ルト云フ、現在ノアノ事實ヲ眺メテ見マシテモ、此傷イタ人達、或ハ戰死者ノ遺族ガ、セメテ靖國神社ニ參拜スル、或ハ伊勢大廟ニ參拜スル場合等ニ、鐵道ノ利用ガ出來スト云フコトハ、私ハドウシテモ承服出來ナイ點デアルト思フノデアリマス、米國ノ如キ先年國費ヲ以テ、遠ク歐洲大戰ノ跡ニ是等ノ人達ヲ輸送シテ、戰死者ヲ弔問セシメタコトサヘアリマス、ドウカ政府ニ於カレマシテモ、此案ニハ直チニ御賛同下サイマシテ、法案ノ成立ニ協力サレンコトヲ望ンデ補足ト致シマス

○議長(富田幸次郎君) 江藤源九郎君——江藤君ハ議席ニ居リマセス、仍テ趣旨辯明

江藤源九郎君

江藤源九郎君

江藤源九郎君

江藤源九郎君

江藤源九郎君

江藤源九郎君

江藤源九郎君

江藤源九郎君

江藤源九郎君

ノ補足ノ申出ヲ拋棄セラレタモノト認メマス

○中山福藏君 本案ハ原口初太郎外六名提出、家祿賞典祿給與未済ニ關スル法律案委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 中山君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第五十、建築士法案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者小西和君

第五十 建築士法案(小西和君外七名提出)

建築士法案 第一讀會

第一條 建築士ハ建築士ノ稱號ヲ用ヒテ當事者ノ委嘱ニ因リ建築ニ關スル設計、工事監督、調査又ハ鑑定ヲ業トスルモノトス

第二條 左ノ條件ヲ具フル者ハ建築士タル資格ヲ有ス

一 帝國臣民又ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ外國ノ國籍ヲ有スル者ニシテ私法上ノ能力者タルコト

二 建築士試験ニ合格シ一年六月以上建築ノ設計監督ニ關スル實務修習ヲ了ヘタルコト

前項第二號ノ建築士試験及實務修習ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス建築士タル資格ヲ有ス

一 建築學ヲ修メタル工學博士
二 帝國大學、大學令ニ依ル大學、專門學校令ニ依ル專門學校又ハ主務大臣ニ於テ之ト同等以上ト認ムル學校

ニ於テ建築ニ關スル諸學科ヲ修メ定規ノ課業ヲ卒ヘタル者ニシテ一年以上建築ノ設計監督ニ關スル實務ニ從事シタルモノ

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ建築士タル資格ヲ有セス
一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ二年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

二 前號ニ該當スル者ヲ除クノ外第十條又ハ第十四條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

三 破産者ニシテ復權ヲ得サル者
四 建築士ノ業務ノ停止ノ期間中其ノ業務ヲ廢止シ未タ其ノ期間ノ經過セサル者
五 建築士ノ業務ノ禁止ノ處分ヲ受ケタル者但シ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シ主務大臣ニ於テ改悛ノ情顯著ナリト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 建築士タラムトスル者ハ建築士登錄簿ニ登錄ヲ受クルコトヲ要ス
建築士ノ登錄ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 建築士ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ登錄料トシテ二十圓ヲ納付スヘシ

第七條 建築士ハ誠實公正ニ其ノ業務ヲ行フヘシ

第八條 建築士ハ其ノ業務ニ關シ委嘱者以外ノ者ヨリ贈與其ノ他ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス

第九條 建築士ハ自ラ左ノ營業ヲ爲シ又ハ左ノ營業ヲ爲ス者ノ使用人タルコトヲ得ス

一 建築土木ニ關スル請負業
二 建築材料ニ關スル商工業
三 土地家屋ニ關スル代理業

第十條 建築士ハ主務大臣ノ監督ニ屬スルトキ又ハ品位ヲ失墜スヘキ行為ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ建築士懲戒委員會ノ議決ニ依リ之ヲ懲戒スルコトヲ得

建築士懲戒委員會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 建築士ノ懲戒處分ハ左ノ四種トス

一 譴責
二 千圓以下ノ過料
三 一年以內建築士ノ業務ノ停止
四 建築士ノ業務ノ禁止

前項第二號ノ過料ヲ完納セサルトキハ主務大臣ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス

非訟事件手續法第二百八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ執行ニ付之ヲ準用ス

第十三條 建築士又ハ建築士タリシ者故ナク其ノ業務上知得タル事項ニシテ委嘱者ニ必要ナル秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第十四條 建築士タル資格ヲ有セスシテ建築士ノ稱號ヲ用ヒ建築士ノ業務ヲ行ヒタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ二年ノ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ二年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

本法施行ノ際迄引續キ一年以上建築ニ關スル設計監督ノ業務又ハ職務ニ從事シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ一年以內ニ出願シタルトキニ限り第二條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス建築士試験委員ノ銓衡ヲ經テ建築士タルコトヲ得

帝國大學、大學令ニ依ル大學、專門學校令ニ依ル專門學校又ハ主務大臣ニ於テ之ト同等以上ト認ムル學校ニ於テ土木ニ關スル諸學科ヲ修メ定規ノ課業ヲ卒ヘタル者ニシテ引續キ三年以上建築ノ設計監督ニ關スル業務又ハ職務ニ從事シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ五年以內ニ出願シタルトキニ限り第二條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス建築士試験委員ノ銓衡ヲ經テ建築士タルコトヲ得

○小西和君 本案ハ私共八名連署ノ提案デアリマス、建築士法案ハ屢々本議會ニ提案セラレマシテ、本院ヲ通過致シタコトガ一再ニ止マラナイノデアリマス、而モ貴族院ニ於テ審議未了ニ終ツテ、ソレガ爲ニ成立致シマセヌノデ、又モヤ茲ニ提出スルノ外ナキニ至ツタモノデアリマス、御承知ノ通り近頃大キナ立派ナ建築ガ、益々盛ニナツテ参リマシタ、殊ニ皇紀二千六百年萬國大博覽會、國際「オリムピック」ヲ眼前ニ控ヘマシタノデ、益々大建築ガ盛ニナル趨勢デアリマス、其建築ニ付キマシテ、一定ノ知識技術ヲ要スル者ガ設計ヲ致シ、又建築ニ際シテ之ヲ監督スル必要アリマスルコトハ申ス迄モ

ゴザイマセス、隨テ現ニ建築士ナルモノガ相當ノ數出來テ居リマス、ソコデ本案ヲ成立サセマシテ、之ニ依ッテ是等ノ建築士ヲ保護スルト同時ニ、其資格ヲ一定致シテ、其助長ヲ圖リ、其弊害ヲ除クト云フコトニ致ス必要ガアリ、併セテ建築スル者ニ安心ヲ與ヘ、建築物ノ向上ヲ圖ルト云フコトニ致シタイ趣意デアリマス、ドウゾ滿場ノ御賛成ヲ得テ、此成立ヲ希望スル次第デアリマス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
中央卸賣市場法中改正法律案
中央卸賣市場法中左ノ通改正ス
第二十九條 本法中主務大臣トハ商工大臣及農林大臣トス
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
〔村岡吾一君登壇〕

○中山福藏君 本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス
○議長(富田幸次郎君) 中山君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ
第六十及第六十一ハ同種ノ議案デアリマスカラ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第六十、中央卸賣市場法中改正法律案、日程第六十一、中央卸賣市場法中改正法律案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者村岡吾一君

第六十 中央卸賣市場法中改正法律案
(八田宗吉君提出) 第一讀會
第六十一 中央卸賣市場法中改正法律案(土屋寛君外一名提出) 第一讀會

中央卸賣市場法中改正法律案
中央卸賣市場法中左ノ通改正ス
第二十九條 本法中主務大臣トハ商工大臣及農林大臣トス

テ、其荷下シテ致シマス爲ノ手数料ト云フモノガ、鮮魚ニ付テハ一貫ニ付テ七錢ト云フ多額ノ料金ヲ取ラレテ居ル、餘リ不當ダト云フノデ、一部ノ荷主ガ汐留驛カラ此引込線ニ依ラズシテ、汐留驛カラ「トラック」ニ下シテ、サウシテ市場ノ賣場迄送テ之ヲ糶リニ掛ケルノデアリマス、斯様ニ引込線ガアルノニ、ソレニ依ラズシテ、汐留驛カラ「トラック」ニ積ミマシテ、之ヲ市場内ノ賣場ニ運ブ、サウシテ其費用ハ一箱ニ付テ僅ニ二錢デ済ムノデアリマス、斯様ニ一箱二錢デ済ム卸賣荷扱料ガ、市場内ノ引込線ヲ持込デモ七錢ヲ取ラレト云フヤウナ、不合理ナ實情ガアルノデアリマシテ、之ニ依ッテ荷主デアルトカ、或ハ消費者デアルト云フモノハ、非常ニ利益ヲ害セラレテ居ルノデアリマス、又最近大阪ノ中央卸賣市場ニ於キマシテハ、卸賣會社ノ糶手ト仲買人ガ結託シテ、市價ヨリモ不當ニ安ク仕切ツタ云フヤウナ例ガアルノデアリマス、或ハ又生産者ノ共同販賣運動ヲ攪亂スルト云フ如キ事モアルノデアリマシテ、斯様ニ此中央卸賣市場ノ運営ト云フモノハ非常ニ重大ナ關係ガアル、新聞ノ報ズル所ニ依レバ、東京ノ卸賣市場ニ關シテモ、此卸賣人ノ數ノ問題ニ付テ、演職事件ガ行ハレテ居ルト云フコトデアリマスガ、實ニ斯ノ如キ不合理ナ點ガアルノデアリマス、ソレガ爲ニ農林水産業者ノ被ル不利益ト云フモノハ、非常ニ多イノデアリマシテ、尙ホ進ミマシテハ、是等生産者ノ生産ノ進展ヲ阻礙スル重大ナル結果トナルノデアリマシテ、遺憾ニ堪ヘザル所デアリマス、而シテ從來農村生産者團體ハ、屢ニ是等ノ點ニ關シテ卸賣會社ノ反省ヲ促シ、或ハ主務省タル商工省ニ陳情致シマシタケレドモ、改善ノ途ガ講ゼラレナイ、所謂百年河清ヲ俟ツニ似テ居ルノデアリマス、今回ハ此荷扱料ニ付キマシテハ、小運送業法ノ發布ニ依リマシテ、

多少改善セラル、カモ知レナイと思ヒマスルガ、大體ニ於テ此農産物、水産物、林産物ヲ市場ニ提供シ、消費者ニ配給スル其中間ノ中央市場ガ、所謂商賣本位、搾取本位ト云フヤウナ傾向ニアルト云フコトハ、要スルニ是ハ商工大臣ノ所管デアアルカラデアルト思フノデアリマス、ソコデ之ニ生産者側ノ所管省タル農林大臣ヲ加ヘマシテ、サウシテ適當ニ此運営ヲ致シタイ、是ガ本案ヲ提出シタ所以デアリマス、何卒皆サンノ御賛同ヲ求メマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 賛成者菅野善右衛門君
○菅野善右衛門君 簡單デアリマスルカラ此席ヨリ發言ヲ御許ヲ願ヒマス
○議長(富田幸次郎君) 許可致シマス
○菅野善右衛門君 本法案ハ先ノ村岡君ノ說明セラレマシタ法律案ト同案デアリマシテ、隨テ其理由モ同一デアリマス、村岡君ノ說明セラレマシタ理由ヲ援用致シマスルカラ、滿場ノ御賛成ヲ御願致シマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ質疑ハアリマセヌ
○中山福藏君 日程第六十及第六十一ノ兩案ハ、一括シテ政府提出、輸出補償法中改正法律案委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス
○議長(富田幸次郎君) 中山君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——先ニ後廻シト致シマシタル日程第十八及第十九ノ審議ニ入リマス、兩案ハ同種ノ議案デアリマスカラ、一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メ

マス、日程第十八、司法書士法中改正法律案、日程第十九、司法書士法中改正法律案ノ兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者立川平君

第十八 司法書士法中改正法律案（立川平君提出） 第一讀會

第十九 司法書士法中改正法律案（中山福藏君外一名提出） 第一讀會

司法書士法中改正法律案

司法書士法中左ノ通改正ス

第四條 司法書士タルニハ檢定委員ノ考試ヲ受ケ所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ考試ニ關スル事項ハ司法大臣之ヲ定ム

第十條ノ二 司法書士ハ其ノ事務取扱ノ統一及改善ヲ圖ル爲其ノ所屬地方裁判所毎ニ司法書士會ヲ設ケ地方裁判所長ノ認可ヲ受クヘシ

第十條ノ三 司法書士ハ其ノ所屬地方裁判所ノ司法書士會ニ加入シタル後ニ非サレハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

第十一條中「品位ヲ失墜スヘキ行爲」ノ下ニ「若ハ司法書士會ノ會則ニ違反シタル行爲」ヲ加フ

第十二條 司法書士ニ非スシテ司法書士ノ業務ヲ行ヒタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ司法書士タル者ハ本法ニ依ル司法書士ト看做ス

各地方裁判所所屬司法書士ハ本法施行ノ月間之ヲ適用セス

第十條ノ三ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ四月間之ヲ適用セス

第十條ノ三ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ四月間之ヲ適用セス

第十條ノ三ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ四月間之ヲ適用セス

第十條ノ三ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ四月間之ヲ適用セス

第十條ノ三ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ四月間之ヲ適用セス

日ヨリ三月内ニ司法書士會設立ノ爲會則ヲ定メ所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受クヘシ

第十條ノ三ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ四月間之ヲ適用セス

司法書士法中改正法律案

司法書士法中左ノ通改正ス

第四條 司法書士タルニハ檢定委員ノ考試ヲ受ケ所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ考試ニ關スル事項ハ司法大臣之ヲ定ム

第十條ノ二 司法書士ハ其ノ事務取扱ノ統一及改善ヲ圖ル爲其ノ所屬地方裁判所毎ニ司法書士會ヲ設ケ地方裁判所長ノ認可ヲ受クヘシ

第十條ノ三 司法書士ハ其ノ所屬地方裁判所ノ司法書士會ニ加入シタル後ニ非サレハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

第十一條中「品位ヲ失墜スヘキ行爲」ノ下ニ「若ハ司法書士會ノ會則ニ違反シタル行爲」ヲ加フ

第十二條 司法書士ニ非スシテ司法書士ノ業務ヲ行ヒタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ司法書士タル者ハ本法ニ依ル司法書士ト看做ス

各地方裁判所所屬司法書士ハ本法施行ノ日ヨリ三月内ニ司法書士會設立ノ爲會則ヲ定メ所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受クヘシ

第十條ノ三ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ四月間之ヲ適用セス

第十條ノ三ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ四月間之ヲ適用セス

第十條ノ三ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ四月間之ヲ適用セス

第十條ノ三ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ四月間之ヲ適用セス

第十條ノ三ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ四月間之ヲ適用セス

第十條ノ三ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ四月間之ヲ適用セス

第十條ノ三ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ四月間之ヲ適用セス

○立川平君 簡單デアリマスカラ、自席ヨリ發言ヲ御許ヲ願ヒマス

○議長（富田幸次郎君） 許可致シマス

○立川平君 本法律案ハ司法書士ノ地位ノ向上、事務ノ統一ヲ圖ル爲ニ、現行司法書士法中二三ノ改正ヲ爲サントスルモノデアリマス、既ニ再三本會ヲ通過致シマシタ議案デアリマス、何卒諸君ノ御賛成ヲ願ヒマス（拍手）

○議長（富田幸次郎君） 提出者内藤正剛君

○中山福藏君 提出者ノ一人トシテ、内藤君ニ代テ趣旨辯明ヲ致シタイト考ヘマス

○議長（富田幸次郎君） 許可致シマス

○中山福藏君 自席ヨリ發言ノ御許ヲ願ヒマス

○議長（富田幸次郎君） 許可致シマス

○中山福藏君 司法書士ハ御承知ノ通り、他人ノ囑託ヲ受ケテ裁判所及ビ檢事局ニ提出スル所ノ書類ノ作成ヲ業トスル者デアリマシテ、其作成文書ノ巧拙良否ハ、直接委託者ノ權利ノ消長ニ關係ヲ有シ、延イテ司法官衙ノ事務ノ進捗ニ多大ノ影響ヲ來スベキ、重大ナル職責ヲ有スル司法ノ補助機關デアルデアリマス、デアリマスカラ、他ノ一般代書人トハ大ニ其趣ヲ異ニシテ居リマスルノデ、國法之ヲ保護シ、之ヲ助成シ、以テ其向上發展ヲ圖ルノガ、當然ノ事理ニ屬スルト考ヘルデアリマス、是レ本案ヲ提出スル所以デアリマス、ドウゾ各位ノ御賛同ヲ御願致シマス

○議長（富田幸次郎君） 別ニ質疑モアリマセス

○中山福藏君 日程第十八及ビ第十九ノ兩案ハ一括シテ議長指名ノ委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス

○議長（富田幸次郎君） 中山君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長（富田幸次郎君） 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○中山福藏君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際日程第四十三及ビ第四十四ヲ一括シテ繰上ゲ上程シ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長（富田幸次郎君） 中山君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長（富田幸次郎君） 御異議ナシト認メマス

○議長（富田幸次郎君） 御異議ナシト認メマス——政府ハ此議事日程變更ニ同意セラレマシタ、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、日程第四十三、護國共同組合法案、日程第四十四、護國共同組合法案、此兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス、順次提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者小林錦君

第四十三 護國共同組合法案（小林錦君外二名提出） 第一讀會

第四十四 護國共同組合法案（池田秀雄君外二名提出） 第一讀會

護國共同組合法案

護國共同組合法案

第一章 總則

第一條 護國共同組合ハ國民皆兵ノ本義ニ鑑ミ互助共同ニ依リ兵役義務履行ニ必要ナル家庭ノ經濟的準備ヲ整ヘ護國ノ精神ヲ振作スルヲ以テ目的トス

護國共同組合法案

護國共同組合法案

護國共同組合法案

護國共同組合法案

護國共同組合法案

護國共同組合法案

護國共同組合法案

護國共同組合法案

第二條 護國共同組合ハ法人トス

第三條 護國共同組合ノ名稱中ニハ護國共同組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フヘシ

護國共同組合ニ非サレハ其ノ名稱中ニ護國共同組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス

第四條 護國共同組合ニハ所得稅、登錄稅及印紙稅ヲ課セス又地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

第二章 設立

第五條 護國共同組合ノ地區ハ市區町村又ハ町村組合ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ區域ニ依ラサルコトヲ得

前項中町村トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトス

第六條 護國共同組合ハ其ノ地區内ノ世帯主ヲ組合員トス但シ世帯主ニ非サル者又ハ法人モ組合員タルコトヲ得

第七條 護國共同組合ヲ設立セムトスルトキハ其ノ地區内ノ世帯主五十人以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ作リ地方長官ノ認可ヲ受クルヲ要ス

第八條 護國共同組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタルトキニ成立ス

第九條 定款ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 目的

二 事業

三 名稱

四 地區

五 事務所ノ所在地

六 共同金ノ負擔及交付ニ關スル規定

七 役員及組合會ニ關スル規定

八 經理ニ關スル規定

九 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
十 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

十一 其ノ他組合ニ關スル重要ナル事項

第三章 事業

第十條 護國共同組合ハ陸軍又ハ海軍ニ徵集、徵募又ハ召集セラレタル者アルトキ組合員ニ對シ共同金ヲ交付シ家業及家事ノ援助ヲ爲シ其ノ他組合ノ目的達成ニ必要ナル事業ヲ行フ

第十一條 共同金ハ左ニ掲クル者陸軍又ハ海軍ニ徵集、徵募又ハ召集セラレタルトキ其ノ組合員ニ對シ之ヲ交付ス

一 組合員ト同一ノ家ニ屬スル者
二 組合員ト生計ヲ同クスル親族
三 組合員ト同一ノ家ニ屬シ且生計ヲ同クスル者

護國共同組合ハ其ノ定款ヲ以テ前項第一號及第二號ニ定ムル共同金ヲ受クヘキ場合ノ範圍ヲ制限スルコトヲ得

護國共同組合ハ前二項ノ規定ニ拘ラス組合會ノ決議ニ依リ組合員ニ對シ共同金ヲ交付スルコトヲ得

第十二條 共同金ハ普通共同金及特別共同金ノ二種トス

普通共同金ハ家庭ノ事情如何ニ拘ラス均一ノ割合ヲ以テ交付シ特別共同金ハ疾病、災害又ハ家庭ノ情況ニ因リ必要アル場合ニ於テ組合會ノ決議ニ依リ普通共同金ニ併セ交付スルモノトス

第十三條 護國共同組合ハ必要アルトキハ定款又ハ組合會ノ決議ニ依リ組合員ノ家業若ハ家事ノ援助又ハ物品ヲ以テ

共同金ノ一部又ハ全部ニ代フルコトヲ得

第十四條 交付セラレタル共同金ニ對シテハ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

共同金ヲ受クルノ權利ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第十五條 護國共同組合ノ事業ニ必要ナル經費ハ組合員之ヲ負擔スルモノトス前項ノ負擔ハ定款又ハ組合會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 護國共同組合ハ必要アルトキハ定款又ハ組合會ノ決議ニ依リ物品ノ讓出又ハ勞力奉仕ヲ以テ釀金ノ一部又ハ全部ニ代ヘシムルコトヲ得

第十七條 護國共同組合ハ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムル組合員ニ對シ組合會ノ決議ニ依リ前條ニ依ル金品ノ讓出及勞力奉仕ヲ猶豫又ハ減免スルコトヲ得

第十八條 護國共同組合ハ現役ニ服セサル組合員又ハ現役ニ服セサル者ト同一世帯内ニ在ル組合員ニ對シ其ノ故ヲ以テ特別ノ負擔ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第十九條 護國共同組合ハ第十條ニ規定スル事業ノ外左記各號ニ關シ組合員ノ指導誘掖ニ努ムルモノトス

一 國民皆兵ノ本義ニ鑑ミ護國ノ精神ノ振作ニ努ムヘキコト

二 自強ノ精神ニ基キ兵役義務履行ニ伴フ家庭ニ於ケル經濟的準備ノ完整ニ努ムヘキコト

三 隣保相助ノ誼ヲ厚クシ組合ノ定ムル金品ノ讓出及勞力奉仕ハ組合ノ精神ニ鑑ミ進テ之ヲ爲スヘキコト

四 兵役義務者及其ノ家族ヲ敬愛シ其ノ名譽ヲ尊重スヘキコト

五 其ノ他組合ノ目的達成ニ必要ナル精神指導ヲ爲スヘキコト

第四章 役員

第二十條 護國共同組合ニ左ノ役員ヲ置キ組合會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選仕ス但シ組合設立ノ際ニ於ケル役員ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

理事 若干名

監事 若干名
理事ハ組合長及副組合長各一名ヲ互選ス但シ副組合長ハ必要アル場合ニ於テハ其ノ數ヲ増加スルコトヲ得

役員ノ任期ハ二年トス但シ重任ヲ妨ケス
役員ハ必要アル場合ニ於テハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ非サル適當ナル者ヨリ選任スルコトヲ得

第二十一條 役員ハ名譽職トス
第二十二條 組合長ハ組合ヲ代表シ組合ノ事務ヲ統轄ス
副組合長ハ組合長ヲ輔佐シ組合長故障アルトキ其ノ職務ヲ代理ス
理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合ノ事務ヲ執行ス

監事ハ組合ノ事務ヲ監査ス
第二十三條 組合事務ノ執行ニ付テハ民法第四十四條第一項、第五十二條第二項及第五十五條ノ規定ヲ準用ス

第五章 組合會

第二十四條 護國共同組合ニ組合會ヲ置ク

組合會ハ組合長及組合會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

理事及監事ハ何時ニテモ組合ニ出席
シ意見ヲ開陳スルコトヲ得

第二十五條 組合會議員ハ組合員中ヨリ
之ヲ選任ス

議員ノ定數及選任ニ關スル事項ハ定款
ヲ以テ之ヲ定ム

議員ノ任期ハ二年トス

第二十六條 組合會議員ハ名譽職トス

第二十七條 組合ニ定款ノ定ムル所ニ
依リ組合長之ヲ招集ス

第二十八條 組合ニ左ニ掲クル事項ヲ
議決ス

一 組合定款ノ改廢ヲ爲スコト

二 年度收支豫算ヲ定ムルコト

三 組合事業ノ報告及決算報告ヲ認定
スルコト

四 財産ノ管理、處分及取得ニ關スル
コト

五 其ノ他本法ニ依リ組合ノ權限ニ
屬セシメタル事項又ハ組合長ニ於テ
付議シタル事項

前項第一號ニ掲クル事項ノ決議ハ地方
長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ効
力ヲ生セス

第二十九條 組合ニ組合長ヲ以テ議長
トス組合長故障アルトキハ副組合長又
ハ其ノ他ノ理事議長ノ職務ヲ代理ス

第三十條 組合ニ組合會議員ノ半數以
上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ
得ス但シ招集再度ニ及フモ尙半數ニ達
セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

組合會議事ハ出席議員ノ全員ノ同意
ヲ以テ之ヲ決ス但シ已ムヲ得サル場合
ニ在リテハ其ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス
ルコトヲ得此ノ場合ニ於テ可否同數ナ

ルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六章 經理

第三十一條 護國共同組合ノ會計年度ハ
政府ノ會計年度ニ依ル

第三十二條 組合事務費ハ毎年度組合員
釐金ノ十分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第三十三條 護國共同組合ハ基本金ヲ積
立ツルコトヲ得

第七章 解散

第三十四條 護國共同組合ハ左ノ事由ニ
因リテ解散ス

一 定款ニ定メタル事由ノ發生

二 組合會ノ決議

三 組合ノ合併

四 組合員ガ三十人未滿ニ減シタルトキ
組合ノ解散及合併ハ組合會議員總數ノ
三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニ非サレハ
之ヲ爲スコトヲ得ス

第三十五條 合併ニ因リテ組合ヲ設立ス
ル場合ニ於テハ定款ノ作成其ノ他設立
ニ關スル行爲ハ各組合ニ於テ選任シタ
ル者共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十六條 組合會ノ決議ニ因ル解散又
ハ合併ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非
サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十七條 合併後存続スル組合又ハ合
併ニ因リテ設立シタル組合ハ合併ニ因
リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼
ス

第三十八條 民法第七十條ノ規定ハ護國
共同組合ノ解散ニ之ヲ準用ス

第八章 清算

第三十九條 清算人ハ其ノ職務ノ範圍內
ニ於テ理事ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第四十條 清算人ハ就職後遲滞ナク組合
財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及貸借對
照表ヲ作り之ヲ組合會ニ提出シテ其ノ
承認ヲ求ムヘシ

第四十一條 清算人ハ組合ノ債務ヲ辨濟
シ又ハ辨濟ニ必要ナル金額ヲ供託スルニ非
サレハ組合財産ヲ分配スルコトヲ得ス

第四十二條 清算事務カ終リタルトキハ
清算人ハ遲滞ナク決算報告書ヲ作リ之ヲ
組合會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第四十三條 清算人タル者ナキトキ又ハ
清算人ノ缺ケタル爲損害ヲ生スル虞ア
ルトキハ地方長官ハ清算人ヲ選任スル
コトヲ得

第四十四條 重要ナル事由アルトキハ地
方長官ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第四十五條 清算人ノ選任アリタルトキ
ハ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ氏名、
住所ヲ登記スヘシ

第四十六條 清算終了シタルトキハ各事務
所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第四十七條 民法第七十三條、第七十四
條及第七十八條乃至第八十一條ノ規定
ハ護國共同組合ノ清算ニ之ヲ準用ス

第九章 監督

第四十八條 護國共同組合ハ第一次ニ北
海道廳長官及府縣知事、第二次ニ內務
大臣、陸軍大臣及海軍大臣之ヲ監督ス

第四十九條 監督官廳ハ組合ニ對シ組合
ニ關スル報告ヲ爲サシメ組合事務ノ執
行又ハ財産ノ狀況ヲ検査シ組合ノ定款、
細則、收支、豫算又ハ經費ノ分賦收入
方法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナ
ル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十條 監督官廳ハ組合會ノ決議又ハ

役員ノ行爲カ適當ナラスト認ムルトキ
ハ決議ヲ取消シ、役員ヲ解任シ又ハ議
員ノ改選ヲ命スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前ニ本法第一條ニ掲クル目的ヲ
以テ設立セラレタル組合ハ命令ノ定ムル
所ニ依リ地方長官ノ認可ヲ受クルヲ要ス

護國共同組合法案
護國共同組合法

第一章 總則

第一條 護國共同組合ハ國民皆兵ノ本義
ニ鑑ミ互助共同ニ依リ兵役義務履行ニ
必要ナル家庭ノ經濟的準備ヲ整ヘ護國
ノ精神ヲ振作スルヲ以テ目的トス

第二條 護國共同組合ハ法人トス

第三條 護國共同組合ノ名稱中ニハ護國
共同組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用
フヘシ

護國共同組合ニ非サレハ其ノ名稱中ニ
護國共同組合タルコトヲ示スヘキ文字
ヲ用フルコトヲ得ス

第四條 護國共同組合ニハ所得稅、登錄
稅及印紙稅ヲ課セス又地方稅ヲ課スル
コトヲ得ス

第二章 設立

第五條 護國共同組合ノ地區ハ市區町村
又ハ町村組合ノ區域ニ依ル但シ特別ノ
事情アルトキハ此ノ區域ニ依ラサルコ
トヲ得

前項中町村トアルハ町村制ヲ施行セザ
ル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトス

第六條 護國共同組合ハ其ノ地區內ノ世
帯主ヲ組合員トス但シ世帯主ニ非サル
者又ハ法人モ組合員タルコトヲ得

第七條 護國共同組合ヲ設立セムトスル
トキハ其ノ地區内ノ世帯主五十人以上
ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ作
リ地方長官ノ認可ヲ受クルヲ要ス
第八條 護國共同組合ハ設立ノ認可ヲ受
ケタルトキニ成立ス
第九條 定款ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載
スルコトヲ要ス

- 一 目的
- 二 事業
- 三 名稱
- 四 地區
- 五 事務所ノ所在地
- 六 共同金ノ負擔及交付ニ關スル規定
- 七 役員及組合會ニ關スル規定
- 八 經理ニ關スル規定
- 九 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
- 十 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由
- 十一 其ノ他組合ニ關スル重要ナル事項

第三章 事業

第十條 護國共同組合ハ陸軍又ハ海軍ニ
徵集、徵募又ハ召集セラレタル者アル
トキ組合員ニ對シ共同金ヲ交付シ家業
及家事ノ援助ヲ爲シ其ノ他組合ノ目的
達成ニ必要ナル事業ヲ行フ
第十一條 共同金ハ左ニ掲クル者陸軍又
ハ海軍ニ徵集、徵募又ハ召集セラレタ
ルトキ其ノ組合員ニ對シ之ヲ交付ス
一 組合員ト同一ノ家ニ屬スル者
二 組合員ト生計ヲ同クスル親族
三 組合員ト同一ノ家ニ屬シ且生計ヲ
同クスル者
護國共同組合ハ其ノ定款ヲ以テ前項第

一號及第二號ニ定ムル共同金ヲ受クヘ
キ場合ノ範圍ヲ制限スルコトヲ得
護國共同組合ハ前二項ノ規定ニ拘ラス
組合會ノ決議ニ依リ組合員ニ對シ共同
金ヲ交付スルコトヲ得

第十二條 共同金ハ普通共同金及特別共
同金ノ二種トス
普通共同金ハ家庭ノ事情如何ニ拘ラス
均一ノ割合ヲ以テ交付シ特別共同金ハ
疾病、災害又ハ家庭ノ情況ニ因リ必要
アル場合ニ於テ組合會ノ決議ニ依リ普
通共同金ニ併セ交付スルモノトス

第十三條 護國共同組合ハ必要アルトキ
ハ定款又ハ組合會ノ決議ニ依リ組合員
ノ家業若ハ家事ノ援助又ハ物品ヲ以テ
共同金ノ一部又ハ全部ニ代フルコトヲ
得

第十四條 交付セラレタル共同金ニ對シ
テハ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ
得ス
共同金ヲ受クルノ權利ハ之ヲ差押フル
コトヲ得ス

第十五條 護國共同組合ノ事業ニ必要ナ
ル經費ハ組合員之ヲ負擔スルモノトス
前項ノ負擔ハ定款又ハ組合會ノ決議ヲ
以テ之ヲ定ム

第十六條 護國共同組合ハ必要アルトキ
ハ定款又ハ組合會ノ決議ニ依リ物品ノ
釀出又ハ勞力奉仕ヲ以テ釀金ノ一部又
ハ全部ニ代ヘシムルコトヲ得

第十七條 護國共同組合ハ已ムコトヲ得
サル事情アリト認ムル組合員ニ對シ組
合會ノ決議ニ依リ前條ニ依ル金品ノ釀
出及勞力奉仕ヲ猶豫又ハ減免スルコト
ヲ得

第十八條 護國共同組合ハ現役ニ服セサ
ル組合員又ハ現役ニ服セサル者ト同一
世帯内ニ在ル組合員ニ對シ其ノ故ヲ以
テ特別ノ負擔ヲ爲サシムルコトヲ得ス
第十九條 護國共同組合ハ第十條ニ規定
スル事業ノ外左記各號ニ關シ組合員ノ
指導誘掖ニ努ムルモノトス

一 國民皆兵ノ主義ニ鑑ミ護國ノ精神
ノ振作ニ努ムヘキコト
二 自衛ノ精神ニ基キ兵役義務履行ニ
伴フ家庭ニ於ケル經濟的準備ノ完整
ニ努ムヘキコト

三 隣保相助ノ誼ヲ厚クシ組合ノ定ム
ル金品ノ釀出及勞力奉仕ハ組合ノ精
神ニ鑑ミ進テ之ヲ爲スヘキコト
四 兵役義務者及其ノ家族ヲ敬愛シ其
ノ名譽ヲ尊重スヘキコト

五 其ノ他組合ノ目的達成ニ必要ナル
精神指導ヲ爲スヘキコト
第四章 役員

第二十條 護國共同組合ニ左ノ役員ヲ置
キ組合會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任
ス但シ組合設立ノ際ニ於ケル役員ハ定
款ヲ以テ之ヲ定ム
理事 若干名
監事 若干名

理事ハ組合長及副組合長各一名ヲ互選
ス但シ副組合長ハ必要アル場合ニ於テ
ハ其ノ數ヲ増加スルコトヲ得
役員ノ任期ハ二年トス但シ重任ヲ妨ケ
ス

役員ハ必要アル場合ニ於テハ定款ノ定
ムル所ニ依リ組合員ニ非サル適當ナル
者ヨリ選任スルコトヲ得
第二十一條 役員ハ名譽職トス

第二十二條 組合長ハ組合ヲ代表シ組合
ノ事務ヲ統轄ス
副組合長ハ組合長ヲ輔佐シ組合長故障
アルトキ其ノ職務ヲ代理ス
理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合ノ事
務ヲ執行ス
監事ハ組合ノ事務ヲ監査ス

第二十三條 組合事務ノ執行ニ付テハ民
法第四十四條第一項、第五十二條第二
項及第五十五條ノ規定ヲ準用ス
第五章 組合會

第二十四條 護國共同組合ニ組合會ヲ置
ク
組合會ハ組合長及組合會議員ヲ以テ之
ヲ組織ス

理事及監事ハ何時ニテモ組合會ニ出席
シ意見ヲ開陳スルコトヲ得
第二十五條 組合會議員ハ組合員中ヨリ
之ヲ選任ス
議員ノ定數及選任ニ關スル事項ハ定款
ヲ以テ之ヲ定ム

議員ノ任期ハ二年トス
第二十六條 組合會議員ハ名譽職トス
第二十七條 組合會ハ定款ノ定ムル所ニ
依リ組合長之ヲ召集ス
第二十八條 組合會ハ左ニ掲クル事項ヲ
議決ス

一 組合定款ノ改廢ヲ爲スコト
二 年度收支豫算ヲ定ムルコト
三 組合事業ノ報告及決算報告ヲ認定
スルコト
四 財産ノ管理、處分及取得ニ關スル
コト
五 其ノ他本法ニ依リ組合會ノ權限ニ
屬セシメタル事項又ハ組合長ニ於テ

付議シタル事項

前項第一號ニ掲クル事項ノ決議ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十九條 組合會ハ組合長ヲ以テ議長トス

組合長故障アルトキハ副組合長又ハ其ノ他ノ理事議長ノ職務ヲ代理ス

第三十條 組合會ハ組合會議員ノ半數以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス

但シ召集再度ニ及フモ尙半數ニ達セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

組合會ノ議事ハ出席議員ノ全員ノ同意ヲ以テ之ヲ決ス但シ已ムヲ得サル場合ニ在リテハ其ノ過半數ヲ以テ之ヲ決スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六章 經理

第三十一條 護國共同組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第三十二條 組合事務費ハ毎年度組合員

第三十三條 護國共同組合ハ基本金ヲ積立ツルコトヲ得

第七章 解散

第三十四條 護國共同組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 定款ニ定メタル事由ノ發生

二 組合會ノ決議

三 組合ノ合併

四 組合員ガ三十人未滿ニ減シタルトキ

五 組合ノ破産

組合ノ解散及合併ハ組合會議員總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三十五條 合併ニ因リテ組合ヲ設立スル場合ニ於テハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關スル行為ハ各組合ニ於テ選任シタル者共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十六條 組合會ノ決議ニ因リ解散又ハ合併ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十七條 合併後存続スル組合又ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

第三十八條 民法第七十條ノ規定ハ護國共同組合ノ解散ニ之ヲ準用ス

第八章 清算

第三十九條 清算人ハ其ノ職務ノ範圍内ニ於テ理事ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第四十條 清算人ハ就職後遲滞ナク組合財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及貸借對照表ヲ作り之ヲ組合會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第四十一條 清算人ハ組合ノ債務ヲ辨濟シ又ハ辨濟ニ必要ナル金額ヲ供託スルニ非サレハ組合財産ヲ分配スルコトヲ得ス

第四十二條 清算事務カ終リタルトキハ清算人ハ遲滞ナク決算報告書ヲ作り之ヲ組合會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第四十三條 清算人タル者ナキトキ又ハ清算人ノ缺ケタル爲損害ヲ生スル虞アルトキハ地方長官ハ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第四十四條 重要ナル事由アルトキハ地方長官ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第四十五條 清算人ノ選任アリタルトキハ各事務所所在地ニ於テ其ノ氏名、住所ヲ登記スヘシ

第四十六條 清算終了シタルトキハ各事務所所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第四十七條 民法第七十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八十一條ノ規定ハ護國共同組合ノ清算ニ之ヲ準用ス

第九條 監督

第四十八條 護國共同組合ハ第一次ニ北海道廳長官及府縣知事、第二次ニ內務大臣、陸軍大臣及海軍大臣之ヲ監督ス

第四十九條 監督官廳ハ組合ニ對シ組合ニ關スル報告ヲ爲サシメ組合事務ノ執行又ハ財産ノ狀況ヲ検査シ組合ノ定款、細則、收支、豫算又ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十條 監督官廳ハ組合會ノ決議又ハ役員ノ行為カ適當ナラスト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員ヲ解任シ又ハ議員ノ改選ヲ命スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前ニ本法第一條ニ掲クル目的ヲ以テ設立セラレタル組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ノ認可ヲ受クルヲ要ス

（小林鑄君登壇）

○小林鑄君 只今上程セラレマシタ護國共同組合法案ニ付テ提出ノ理由ヲ簡單ニ御説明申上ゲマス、諸君、我國ノ兵制ハ御承知ノ通り、列聖ノ遺範ヲ經トシ、獻身奉公ノ國民道德ヲ緯トスル、國民皆兵ノ制度デアリマシテ、過去屢次ノ征戰ヲ經テ、益々其精

華ヲ發揮シツ、アルノデアリマス、隨テ兵役ノ義務ニ服スルト云フコトハ、國民ノ崇高ナル道德ノ表顯デアツテ、國民ハ進ンデ此義務ニ服スル美風ヲ持ツテ居ルノデアリマス、而シテ壯丁ハ自家ノ利害休戚ヲ顧ミルコトナク、國家防護ノ重責ヲ負ヒマシテ

又現役ヲ終ツテカラモ各種ノ義務ニ服シ、緩急ノ用ニ應ズル爲メ、精神的ニモ、肉體的ニモ、絶エズ緊張セル生活ヲ續ケテ居ルノデアリマス、壯丁ヲシテ此重大ナル義務ヲ完全ニ果サシムル爲ニハ、豫メ十分ナル準備ガ必要デアリマス、若シ此準備ヲ忽セニ致シマシテ、其選ニ當ルコトニナクナラバ、後顧ノ憂ナクシテ其重任ヲ全ウスルコトハ到底難シイト思ヒマス、其幾多ノ準備中、精神、知識及ビ身體等ニ付キマシテハ、國民教育其他ノ施設、換言スレバ國民協同ノ力ニ依リマシテ、自然ニ其成果ヲ收メラレテ居リマス、併ナガラ獨リ經濟準備ニ付キマシテハ、其家庭單獨ノ力デヤラナケレバナラス、是ガ爲メ一家長タル者ハ鋭意努力ヲシテ居リマスルガ、國民生活ノ實情ニ鑑ミル時ニハ、何レノ家モ單獨デ十分ナル準備ヲ爲スコトハ、相當ニ困難ガ伴フモノデアリマス、尤モ兵役義務者ノ家庭ノ生計困難ナル者ニ對シマシテハ、軍事救護法及ビ民間軍事扶助團體ガアリマシテ、若干ノ施設ガ講セラレテ居リ、ソレム、其特殊ノ目的ニ對シテハ、相當ノ貢獻ヲシテ居ルノデアリマスケレドモ、尙ホ一步深く兵制ノ根本ニ邁ツテ之ヲ討究スル必要ガアルモノト考ヘ、茲ニ國家ヲ防護スルト云フコトハ、國民全體ノ協同ノ任務デアルト云フ大義ニ立脚シ、兵役義務履行ニ伴フ經濟準備ハ、

國民協同ノ力ニ依ッテ之ヲ整フルコトガ至當ナルトノ原則ヲ掲ゲテ、協同ノ組合ヲ設ケ、義勇奉公ノ大義ヲ全ウセントシテ生マレクモノガ、即チ護國共同組合デアリマス

其要領ハ豫メ必要ナル準備、即チ金品等ヲ年々又ハ月々ニ蓄積シテ置キマシテ、兵役義務者ヲ出ス家ニ、一定ノ標準ニ依ッテ、之ヲ交付シ、又ハ勞力奉仕ヲ以テ、家事家業ノ援助ヲ行ハントスルモノデアリマス、斯ノ如クスル時ニハ、國民皆兵ノ本義ニモ適ヒ、一時ニ引受ケナケレバナラナイ所ノ經濟負擔ニ對シ、少額ノ年掛又ハ月掛等ノ準備ヲ以テ、極メテ圓滑ニ又安全ニ整備シ得ラレルデアリマス、最近此組合ノ觀念ガ漸次普及致シマシテ、其數ハ既ニ全國ニ五十有餘ニナリマシタ、又一方益、此觀念ノ擴ガルト共ニ、將ニ成立セントスルモノガ二百ニ及ビ、沖繩縣ヲ除クノ外ハ、全國各府縣ニ分布サレルヤウニナッテ參ツクデアリマス、組合ノ數ノ増加スルニ從ヒマシテ、是ガ連絡統制及ビ保護監督ガ必要ナルデアリマス、此連絡統制ニ付キマシテハ、國家ノ要望スル所ニ之ヲ導キ、又保護監督ニ付テハ、國家權力ノ行使ニ俟タナケレバナラナイト云フコトハ、極メテ明瞭ナコトデアリマス、是ニ於テカ速ニ法律ヲ制定シ、組合ニ確固タル指針ヲ與ヘ、國民ヲシテ適從スル所ヲ明ニスルノハ、國家トシテ洵ニ當然執ラネバナラス措置デアラウト信ズルデアリマス

今ヤ國際關係ハ最モ重大ナル時機ニ當面シテ居リマスガ、吾々ガ若シ不幸ニシテ戰ハザルベカラズトスルナラバ、其戰鬭タルヤ相當ニ長期ニ亙ルコトヲ覺悟シナケレバ

ナラスト思ヒマス、而シテ戰爭ノ勝敗ハ、近代戰爭ノ性質ヨリ致シマシテ、獨リ第一線ノ軍隊ノ強弱ノミニ依ッテ岐カル、モノデハナク、第二線ノ國民ノ彈力性ガ極メテ重大ナル關係ヲ有スルモノデアラウト考ヘマス、即チ戰爭終局ノ勝利ハ、第一線ノ軍隊ガ精銳無比デアルト共ニ、軍人ノ家庭ニ於ケル精神的、物質的彈力性ノ強弱ト、軍人ニアラザル一般國民ガ、軍人及ビ其家庭ト同身一體、死生ヲ俱ニスルト云フ、道義的結合力ノ強大ナルコトニ歸スルモノナルコトハ、私ノ言フ迄モナイコトデアリマス

斯ノ如ク檢討致シマスレバ、國家ガ第一線ノ國防力増強ニ努力スルト共ニ、第二線ノ彈力性補強ノ施設タル護國共同組合ノ施設ヲシテ、一日モ早く完成セシムルコトガ急務中ノ急務デアルト確信致シマシテ、此法案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上、速ニ御協賛アラントラ切望致シマス(拍手)

○副議長(岡田忠彦君) 提出者池田秀雄君此席ヨリ發言ノ御許ヲ願ヒマス

○池田秀雄君 宜シウゴザイマス

○池田秀雄君 本案ハ只今小林君ヨリ御説明ニ相成リマシタ案ト同一ノ内容ヲ有スルモノデアリマス、其説明ノ詳シイコトハ申上ゲマセス、唯今日國際危局ノ際、我國ノ豫算ハ國防ノ充實ノ爲メ半分ヲ占メテ居ル際ニ當リマシテ、ドウシテモ其根本ヲ培フ必要ガアルト思フノデゴザイマス、即チ兵役ノ義務ニ服スル壯丁ノ家庭ノコトニ、十分後顧ノ憂無カラシムルコトヲ吾々努メナケレバナラスト確信ヲ致シテ居ル者デアリマス、本案ハ故ニ隣保共同ノ精神並ニ自治

ノ精神ノ本ト致シテ立案シタモノデゴザイマスカラ、滿場各位ノ御賛成ヲ御願致シマス(拍手)

○副議長(岡田忠彦君) 質疑ノ通告ハアリマセス

○中山福藏君 日程第四十三及ビ第四十四ノ兩案ハ一括シテ政府提出防空法案委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(岡田忠彦君) 只今ノ動議ニ御異議アリマセスカ

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○中山福藏君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際政府提出農村負債整理資金特別融通及損失補償法案ヲ議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○副議長(岡田忠彦君) 只今ノ動議ニ御異議アリマセスカ

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ

農村負債整理資金特別融通及損失補償法案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長牧山耕藏君

農村負債整理資金特別融通及損失補償法案(政府提出)

報告書 第一讀會ノ續(委員長報告)

一農村負債整理資金特別融通及損失補償法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十二年三月二十七日
委員長 牧山 耕藏
衆議院議長富田幸次郎殿

(別紙)
農村負債整理資金特別融通及損失補償法案中左ノ通修正ス

第五條 北海道府縣ハ第一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲スニ因リ市町村ガ損失ヲ受ケタルトキ之ニ對シ其ノ特別融通總額ノ十分ノ三以內ノ金額(市町村ニ對スル損失補償金)ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

政府ハ前項ノ損失補償ノ契約ニ基キ北海道府縣ガ損失補償ヲ爲シタルトキ之ニ對シ其ノ市町村ニ對スル損失補償金ノ三分ノ二ニ相當スル金額ヲ補給スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ北海道府縣ガ市町村ニ對シテ爲ス損失補償ノ契約ニ於テハ北海道府縣ノ市町村ニ對スル損失補償金中其ノ六分ノ一ニ相當スル金額ヲ該當市町村ニ於テ負擔スベキ旨ヲ定ムベシ但シ特別ノ事由アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ市町村ノ負擔スベキ金額ノ割合ニ付別段ノ定ヲ爲スコトヲ得村ヲシテ負擔ヲ爲サシメザルコトヲ得

附帶決議
政府ハ本法實施ニ當リテハ農村負債整理事業ノ徹底促進ヲ圖ルガ爲左ノ事項ヲ實行スベシ
一 本法ノ運用ニ當リテハ負債整理事業ノ本質ニ鑑ミ政府ハ債務者ノ負擔

九二三

ニ歸スベキ利子ニ付極力其ノ低減ニ努ムベシ

二 市町村ヲ經由スル負債整理資金ノ原資ノ金利ハ他ノ機關經由ノモノト同率程度ニ引下グベシ

三 負債整理ノ爲ニスル負債ノ條件緩和ノ徹底ヲ圖リ特ニ融資銀行ヲシテ其ノ交渉ニ應ゼシメ苟モ本法制定ノ趣旨ニ反スルガ如キ結果ニ陥ルコトナキヤウ嚴ニ督勵スベシ

四 政府ハ本法及農村負債整理組合法ノ運用ニ關スル命令等ヲ制定又ハ改正スルニ當リテハ極力其ノ簡易化ニ努ム且其ノ手續及運行ノ敏捷ヲ期スベシ

〔牧山耕藏君登壇〕

○牧山耕藏君 本委員會ニ付託サレマシタ農村負債整理資金特別融通及損失補償法案ノ審議ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、委員會ニ於キマシテハ本案ノ付託ヲ受ケマシテ以來、期日モ切迫致シテ居ルノデアリマスカラ、連日會議ヲ開キマシテ、本案ノ重大性ニ鑑ミ、極メテ慎重審議ヲ盡シタノデアリマス、所管大臣デアル農林大臣ヲ初メ、司法大臣、内務、大藏當局ノ出席ヲ求メマシテ、質問應答ヲ重ネタノデアリマス、委員會ニ於テ政府ノ説明スル所ニ依レバ、本案ノ内容ハ第一ニ負債整理資金ノ融通ニ付テ、從來市町村經由ノモノニ限ラレテ居リマシタノヲ、新ニ産業組合中央金庫、日本勸業銀行、農工銀行及ビ北海道拓殖銀行等ヨリ資金ヲ融通スルノ途ヲ開イタノデアリマス

第二ニ負債整理資金ノ總額ハ五億圓トシ、市町村經由一億圓、産業組合中央金庫及ビ

日本勸業銀行經由ソレノ二億圓ノ豫定デアリマスルガ、各融資機關ノ間ニ於ケル流用ヲ認メテ居ルノデアリマス、尙ホ資金融通ノ豫定期間ハ、今後十箇年ト致シテ居ルノデアリマス、即チ農村ニ於ケル負債ハ、昭和十年八月末ノ調査ニ依リマス、約四十一億圓アルノデアリマスガ、其中負債ノ内容、農家ノ事情等ヨリ見マシテ、緊急整理ヲ要スル負債ガ約十三億圓アルノデアリマスガ、本制度ニ依リマスルト、其中約三割前後ガ條件緩和ニ依ッテ減額セラレルモノト見込マレノデアリマシテ、残りノ負債約九億圓ニ對シテ、五億圓ノ資金ヲ融通スレバ負債ノ整理ハ一應片付クモノト見テ居ルノデアリマス

第三ニ政府ノ損失補償ノ割合ハ市町村經由ノモノハ、從來融通總額ノ一割五分デアリマシタノヲ二割ニ増加シテ、道府縣及ビ市町村ノ損失負擔ノ割合ヲ輕減シ、政府ノ負擔分ト合シテ三割ノ損失補償トシ、産業組合中央金庫ニ對スルモノハ融通總額ノ三割、日本勸業銀行等ニ對スルモノハ融通總額ノ三割トシ、損失補償金額ヲ合計一億二千萬圓以內トシタノデアリマス

以上ガ本案ノ大體ノ内容デアリマシテ、本案ヲ提出シタル理由ハ、農村ノ現狀ニ鑑ミ、其經濟更生ヲ圖ランガ爲ニハ、累積固定セル多額ノ負債ノ整理ヲ喫緊ノ要事トスルニモ拘ラズ、農村負債整理事業ノ從來ノ實績ヲ見マスルト、昭和八年八月實施以來、既ニ三年餘ヲ經過シテ居ルノデアリマスルガ、設立組合數ハ約五千、組合設立町村ノ數ハ約千七百デアリマシテ、約一億二千萬圓ノ負債ニ付テ、整理計畫ガ樹立セラレタノニ過ギナイ狀況デアリマシテ、未ダ全國

的ニ普及シテ居ラナイノデアリマスルガ故ニ、從來ノ制度ヲ補強擴大シ、以テ農村ノ負債整理、經濟更生ヲ促進センガ爲デアルト云フコトデアリマシタ

次ニ委員ト政府トノ間ニ種々質疑應答ガ重ネラレタノデアリマスガ、本案ハ市町村ニ於ケル債務者約五百萬戸、其負債總額ハ只今申述べマシタ如ク四十一億ヲ算スルノデアリマシテ、其關係スル所ハ極メテ重大デアリマス、時間ガ許シマスルナラバ、各派ニ於カレマシテモ此本會議ニ於テモ十分ニ討議ヲ重ネラレル筈デアリマスガ、委員會ニ出席セラレタル各派ノ委員諸君ハ、此點ニ付テハ、委員長ヨリ成タケ詳細ニ報告スベシトノ御注文デアリマシタノデ、甚ダ時間モ差迫ッテ居ルノデ恐縮デアリマスルガ、極メテ重大ナル法案デアリマシテ、又國民大衆モ之ヲ知ラント欲シテ居リマスノデアリマスルカラ、暫クノ間御清聴ヲ煩ハシタイト思フノデアリマス

第一ニ今回資金融通ノ經路ヲ増加シタコトハ結構デアアルガ、從來負債整理ガ思フヤウニ進捗シナイ原因ガ種々アルト思ハレルガ、是等ノ點ヲ如何ニ改メラルカト云フ質問ニ對シテ、政府當局ヨリ率直ニ本法成立ノ場合ニ於テハ農村負債整理事業ヲ徹底セシムルガ爲メ、從來ノ方針ヲ根本的ニ改メ、

旨ノ答辯ガアリマシタ、政府ガ從來ノ方針ヲ根本的ニ改メ、負債整理ノ促進ヲ徹底セントスル主ナル事項ハ左ノ通りデアリマス、一、手續ヲ出來ルダケ簡易ナラシムルコト、二、負債整理組合ノ設立ヲ容易ナラシムルガ爲メ負債ナキ者ノ加入ヲ緩和、同一區域ニ二ツ以上ノ組合ノ設立ヲ認ムルコト、三、信用組合ノ代行、其他ノ法人ノ代

行ヲ廣ク認ムルコト、四、資金ノ借入ニ個人保證ヲ取ラザルコトヲ原則トシ、場合ニ依リテ條件緩和後ノ残りノ負擔ニ相當スル資金ヲ融通シ、且ツ政府資金融通マデノ織ギ資金ヲ融通セシムルコト、五、各地方ニ相當數ノ指導員ヲ設置シ、農村ヲ巡回セシメテ、資金借入手續ノ斡旋、資金借入手續ノ指導、融資機關ヘノ交渉等ヲナサシメ、手續ノ煩雜ニ苦シムコトナキヤウ極力努力スルコト

第二ニ、從來負債整理事業ノ進捗セザル原因ノ一ツトシテ、負債整理ニ關スル訓令、通牒等ガ餘リニ消極的ナルコトニ存スルト考ヘラル、ガ、是等ノ點ヲ改正スル考ナキカトノ質問ニ對シ、政府當局ヨリ、個人保證、同一區域ニ二ツ以上ノ組合ヲ認メザル點、其他ニ付キ之ヲ改正スル考デアルトノ答辯ガアリマシタ

第三ニ、融資銀行ニ於テ負債整理資金ヲ融通スル場合ニ、擔保不動産ノ鑑定價格ノ決定方針ガ從來ノ通りデハ本法ノ目的ヲ達成スルコト困難ナラズヤトノ質問ニ對シテ、政府當局ヨリ、融資銀行ヲシテ鑑定價格ヲ出來ルダケ時價マデ認メシムルヤウ努力スル考デアルトノ答辯ガアリマシタ

第四ニ、融資ラ五億圓ト豫定セルモ、從來ノ經過ニ鑑ミル時ハ、其消化ガ困難デアルト思ハレルガ如何トノ質問ニ對シテハ、政府當局ハ、本法施行ノ場合ニ於テハ、從來負債整理事業ノ進捗セザルモノト思ハレル點ヲ根本的ニ改メ、極力負債整理事業ノ促進ニ努力スル考デアラルカラ、五億圓ノ資金ハ十分消化スルモノト信ズルトノ答辯ガアリマシタ

第五ニ、市町村負債整理委員會ハ、負債

整理組合ノ有無ヲ問ハズ、各町村ニ設立スル意思アリヤ、經濟更生特別助成ノ指定町村ニ於テハ、必ズ負債整理事業ヲ行ハシムルコトヲ條件トスル意思アリヤトノ質問ニ對シテ、政府當局ヨリ、質問ノ趣旨ニ則ル旨ヲ答辯セラレマシタ

第六ニ、負債整理組合法第二條ノ但書、即チ同法施行ノ日以後發生セル負債ヲ整理スル場合ニハ、行政官廳ノ認可ヲ受ケネバナラスコトニナツテ居ルノデアリマスガ、此規定ヲ削除スル意思ナキヤトノ質問ニ對シテ、政府當局ヨリ、法律ヲ改正スル意思ハナイガ、認可手續ヲ簡單ニスルト共ニ、本法案施行期日マデニ發生シタ負債ハ、支障ナキ限り總テ認可スル方針デアルト明答ヲ致シマシタ

第七ニ、本案ニ依レバ、産業組合中央金庫ニ對スルト、市町村ニ對スルト政府ノ損失補償ノ割合ニ差違ガアルガ、其理由、及ビ市町村ニ對シテモ産業組合中央金庫ニ對スルト同様、政府ノ損失補償ヲ三割ニスル意思ナキヤトノ質問ニ對シテハ、政府當局ヨリ道府縣、市町村ハ公共團體デアルカラ、當該地方ノ負債整理ニ協力セシムル爲メ、損失ノ一部分ヲ負擔セシムルコトトシタ次第デアルガ、産業組合ヲ通ズル分ニ付テハ、産業組合中央金庫ヲ通ジテ一括融通スルコトトシタ爲メモアリ、政府ダケデ三割ノ損失補償ヲ爲スコトトシタトノ答辯デアリマシタ

第八ニ、負債整理資金ノ利率ハ如何ニスルヤト云フ質問ニ對シテ、政府ハ、市町村經由ニ依ルモノモ、産業組合中央金庫ニ依ルモノモ、日本勸業銀行等ノ經由ニ依ルモノモ、何レモ農家ノ借入利率ヲ四分一厘ト

スル方針ニシテ、預金部ヨリ經由機關ニ對スル融通利率ハ、市町村ニ對スル分ハ現行通り三分八厘程度トシ、産業組合中央金庫及ビ日本勸業銀行等ニ對スル分ハ、産業組合中央金庫及ビ信用組合並ニ日本勸業銀行等ニ於テソレモ若干ノ手数料ヲ要シマスカラ、之ヲ見込デ市町村經由ノ分ヨリモ低メル方針デアルト云フ答辯ヲ致シマシタ

第九ニ、負債整理資金ノ利率ガ高キニ過ルガ、之ヲ低下スル意思ハナイカ、尙ホ預金部ヨリ市町村ニ對スル融通利率ヲ、産業組合中央金庫及ビ日本勸業銀行等ニ對スル分ト同様ノ利率トスル意思ナキヤトノ質問ニ對シ、政府ハ、負債整理資金ハ成べく低利ナルコトガ望マシイケレドモ、預金部資金ノ都合モアルコトデアルカラ、已ムヲ得ズ此程度トシタモノデアル、尙ホ市町村ニハ本資金ノ經由ニ付テハ手数料ヲ取ラセナイ方針デアリ、産業組合中央金庫及ビ日本勸業銀行等ハ金融機關デアルカラ、本資金經由ニ必要ナル事務費ヲ支辨スル爲メ、實費ニ相當スル手数料ヲ取ラセル必要ガアルノデ、預金部ヨリ兩者ニ對シ融通スル利率ノ間ニ多少ノ差違ガアルノデアルト答辯ヲ致シタノデアリマス

第十ニ、利息制限法及ビ金錢債務臨時調停法ヲ強化スル爲ニ之ヲ改正スルノ意思ナキヤ、又農村ニ於ケル高利貸及ビ惡「ブローカー」等ノ取締法ヲ制定スルノ意思ナキヤト云フ質問ニ對シ、政府ヨリ、目下是等ニ關シ種々考究中デアルガ、來議會ニ是等ノ法案ヲ提出スルヤ否ヤハ今言明スルコトガ出來ナイト云フ答辯ガアリマシタ

第十一ニ、金錢債務調停ノ調停委員ニハ、農村ノ實情及ビ債務者ノ實情ニ通曉セル者ヲ選任スルト共ニ、調停ニ當リマシテハ懇切ヲ旨トシテ事ニ當ラシムルヤウニ當事者ヲ督勵セラル、ノ意思アリヤトノ質問ニ對シテ、政府ヨリ十分質問ノ趣旨ヲ諒承セル旨ヲ答辯致シマシタ

第十二ニ、小作人ノミニ負債整理組合ヲ認ムルヤ、又一組合ノ組合員數ニ付キ制限ヲ付スルコトナキヤトノ質問ニ對シテ、政府ヨリ、自力更生ノ精神ガ充實シテ居ルモノデアリサヘスレバ、別ニ難カシイ制限ヲ加ヘズニ認メル方針デアルトノ答辯デアリマシタ

第十三ニ、本法案ニ依レバ、日本勸業銀行等ヨリ資金ノ借入ヲ爲ス者ニ付テハ、經濟更生計畫ヲ樹立セシムルト云フコトヲ規定シテ居ラナイガ、ソレデハ負債整理組合ノ組合員トノ權衡ヲ失スルシ、且ツ又負債ノ借入ヲ爲ス者ニモ、經濟更生計畫及ビ負債償還計畫ヲ樹立セシムルコトトシ、單ナル負債ノ借換ニ終ルコトナキヤウニセシムルノ方針デアルト云フ答辯ガアリマシタ

第十四ニ、小農ノ經濟更生計畫ヲ容易ナラシムル爲ニハ、之ニ對スル金融ヲ圖ルコトガ必要デアルガ、之ニ關シ如何ナル方策ヲ有スルカト云フ質問ニ對シテ、政府ヨリ小農ニ對スル金融ハ、信用組合ヲ中心トシテ行フ方針デアッテ、是ガ圓滑ヲ圖ル爲ニハ、小農ヲシテ農事實行組合等ノ團體ヲ作ラシメテ、之ニ對シ金融スルコト、先年制定セラレタル農業動産信用法ヲ十分ニ活用サセムルコト、及ビ農產物ノ共同販賣ヲ徹底セシムルコト等ノ方法ニ依ル方針デアリ、尙ホ經濟更生特別助成ノ指定町村ニ於テハ、小農ノ經濟更生ヲ容易ナラシムル爲メ、共同

施設ヲ爲スニ必要ナル資金ヲ極メテ低利ニ融通スルコトニナツテ居ルトノ答辯ガアリマシタ

第十五ニ、金融機關、殊ニ日本勸業銀行ヨリノ負債ノ條件緩和ヲ圖ラナケレバ、負債整理ハ到底進捗出來ナイノニモ拘ラズ、金融機關ハ條件緩和ヲ應諾セザルノミナラズ、嚴重ナル取立ヲ爲スノ實情ニ在ルノデアルガ、之ニ對シ政府ハ如何ナル對策アリヤトノ質問ニ對シ、政府ヨリハ金融機關モ具體の場合ニ應ジ、緩急宜シキヲ得ルヤウニシテ負債整理ニ協力スベキモノデアルカラ、其趣旨ノ徹底ヲ圖ル爲メ十分努力スル考デアルトノ答辯ガアリマシタ、此外委員會ニ於テハ幾多ノ重要ナル質疑應答ガ行ハレタノデアリマスルガ、委員長席ヨリ拜聽致シマシタル委員諸君ト政府トノ質疑應答ノ主要ナル點ハ、只今大體御報告ヲ致シタ積リデアリマス

之ニ對シテ本日午後一時半カラ討論ニ入リマシタ、先ヅ立憲民政黨ノ村上國吉君ヨリ立憲民政黨、立憲政友會、昭和會ノ共同ヲ以テ修正案ヲ提出サレタノデアリマス、其修正案ヲ朗讀致シマス、本法第五條第三項但書ニ付キ左ノ如キ修正意見ヲ提出スル、即チ修正ノ點ハ同但書ヲ「但シ特別ノ事由アル時ハ命令ノ安ムル所ニ依リ市町村ノ負擔スベキ金額ノ割合ニ付別段ノ安ヲ爲シ、又ハ市町村ヲシテ負擔ヲ爲サシメザルコトヲ得」ト修正スルト云フコトデアリマス、此修正ヲ爲シマシタ理由ハ、道府縣及ビ市町村ヲシテ、ソレモ損失ノ一部分ヲ負擔セシムルコトハ、負債整理事業ノ遂行ヲ放漫ナラシメザル點ニ於テハ尤ナコトデアレドモ、市町村ノ負擔ヲ重クシテ置

タト、負債整理事業ノ進捗ヲ阻害スルコト

ハ、從來ノ經驗ニ徴シテ明白ナコトデア
カラ、成ベク市町村ノ負擔ノ分ハ輕減スル
コトガ必要デアリ、若シ市町村ノ經濟及ビ
財政其他ノ事由ニ由リ、負擔困難ナル場合
ニ於テハ、市町村當事者ニ於テ本制度ノ趣
旨ヲ十分了解シテ居ルナラバ、全然其負擔
ヲ爲サシメナイコトガ必要デアルト認ムル
ノデアル、即チ此理由ヲ以テ修正ヲ施スト
云フコトデアリマシタ

尙ホ立憲民政黨ノ村上國吉君ヨリ是亦立
憲政友會、昭和會ノ共同ヲ以テ一ツノ附帶
決議ヲ提議サレタノデアリマス、其全文ヲ
朗讀致シマス

附帶決議

政府ハ本法實施ニ當リテハ農村負債整理
事業ノ徹底促進ヲ圖ルガ爲左ノ事項ヲ實
行スベシ

一 本法ノ運用ニ當リテハ負債整理事業
ノ本質ニ鑑ミ政府ハ債務者ノ負擔ニ歸
スベキ利子ニ付極力其ノ低減ニ努ムベ
シ

二 市町村ヲ經由スル負債整理資金ノ原
資ノ金利ハ他ノ機關經由ノモノト同率
程度ニ引下グベシ

三 負債整理ノ爲ニスル負債ノ條件緩和
ノ徹底ヲ圖リ特ニ融資銀行ヲシテ其ノ
交渉ニ應ゼシメ苟モ本法制定ノ趣旨ニ
反スルガ如キ結果ニ陥ルコトナキ様嚴
ニ督勵スベシ

四 政府ハ本法及農村負債整理組合法ノ
運用ニ關スル命令等ヲ制定又ハ改正ス
ルニ當リテハ極力其ノ簡易化ニ努メ且
其ノ手續及運行ノ敏捷ヲ期スベシ

斯ル提議ヲサレマシタ後ニ於テ、村上君
ハ之ニ對スル政府ノ所見ヲ質サレタノデア

リマス、山崎農林大臣ハ只今御報告致シマ
シタ修正ノ點ニ付テハ全然同意ヲ表サレ、
尙ホ附帶決議ニ對シマシテモ、誠意ヲ以テ
之ニ善處スルト云フ言明ヲ得タノデアリマ
ス、次デ政友會ノ石井徳久次君、昭和會ノ
永山忠則君、社會大衆黨ノ黒田壽男君、第
二控室ノ小山亮君、又相次デ賛成ノ意見ヲ
述べラレタノデアリマス、採決ニ入リマシ
テ全會一致ヲ以テ議案ニ對シテハ修正通リ
議決致シマシタ、又附帶決議ニ付キマシテ
モ、全會一致ヲ以テ可決致シタノデアリマ
ス

最後ニ一點御報告致シタイノハ、社會大
衆黨ノ黒田君ガ賛成ハスルガ、之ニハ希望
ヲ附シタイ、實ハ之ニ付テハ本會議ノ討論
ノ場合ニ於テ申述べタイノデアアルガ、會期
モ切迫シ時間ノ都合モアルコトデアアルカ
ラ、之ヲ省略シタイト思フガ、委員長ヨリ
特ニ報告ヲスルヤウニト云フ御註文デアリ
マシタカラ、茲ニ其社會大衆黨ノ黒田壽男
君ヨリ述べラレマシタル希望條項ヲ朗讀致
シマス

一、政府ハ負債整理組合法、金錢債務臨
時調停法等ノ運用ニ改善ヲ加ヘ、以テ
不合理ナル高利債ニ苦シム貧困農民ノ
負債整理ノ促進ヲ圖ルベシ

一、政府ハ農村ニ於ケル不合理ナル高利
債ノ今後ノ増加ヲ抑止スルタメニ惡金
融業者ニ對シテ嚴重ナル取締ヲナスベ
シ

一、政府ハ速ニ農民ニ低利ナル農業中期
信用並短期信用ヲ與フル爲適當ナル方
策ヲ樹立スベシ

斯様デアリマス(拍手)之ヲ以テ御報告ヲ終
リマス(拍手)

○副議長(岡田忠彦君) 討論ノ通告ガアリ
マス、之ヲ許シマス——伊豆富人君——居
リマセスカ、ソレデハ通告ハ之ヲ取消シマ
ス、他ニ、討論ノ通告ハアリマセスカ、本案
ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマゼスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマ
シタ

○中山福藏君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開
キ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り
可決セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(岡田忠彦君) 只今ノ動議ニ御異
議アリマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、
議案全部ヲ議題ト致シマス

農村負債整理資金特別融通及損失補償
法案 第二讀會(確定議)
○副議長(岡田忠彦君) 別ニ御發議モアリ
マセス、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告通
リ可決確定致シマシタ(拍手)

○中山福藏君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ
提出致シマス、即チ此際政府提出防空法案ヲ
議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ其審議ヲ
進メラレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(岡田忠彦君) 只今ノ動議ニ御異
議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレ
マシタ、防空法案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマ
ス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長野
村嘉六君

防空法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 防空法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

昭和十二年三月二十七日

委員長 野村 嘉六

衆議院議長富田幸次郎殿

〔野村嘉六君登壇〕

○野村嘉六君 只今議題トナリマシタ防空
法案ノ委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上
ゲマス、近年航空機ノ進歩發達ハ各國共著
シク、競ウテ空軍ノ充實ニ努メテ居ル有様
デアリマス、故ニ一旦戰時又ハ事變ガアツク
ナラバ、當然空襲ノ危險アルコトハ豫想セ
ナケレバナリマセス、殊ニ現時ノ國際情勢
ハ一觸即發ト云フ關係デアリマス、勿論斯
ル場合ニ防空ノ事ニ任ズル者ハ陸海軍デア
リマスガ、一般國民モ萬一以上ノ如キ航空
機ノ來襲ノ時ニハ、全力ヲ擧ゲテ軍ノ防衛
ト相呼應シ、相協力シテ危害ノ防止ニ當ラ
ネバナリマセス、ソレニ平素カラ一定ノ計
畫ノ下ニ、豫メ空襲ニ備ヘル準備ト訓練ガ
必要デアリマス、然ルニ從來行ハレマシタ
各地ノ防空演習ハ、隨時官民ノ申合せニ依ッ
テ行ハレタルニ過ギザルモノデアリマシテ、
演習ノ内容モ區々ニ分レ、一時的計畫デア
リマシタ、是デハ到底完全ナル效果ヲ擧ゲ
ラレマセスカラ、訓練、實行全體ニ對シマ
シテ、法制ニテ權限關係ノ範圍ヲ定メ、適
切ノ計畫ヲ行ハントスル爲ニ、本案ヲ提出
シタト云フ理由デアリマス

此際委員會ニ於ケル質問應答ノ二三ヲ御
紹介申シマス一ツハ本法實施ニ依ル一箇年

ノ經費ハ如何程掛ルヤト云フ質問ニ對シテ、一箇年約四百萬圓デ、從來ノ防空演習ハ約百六十萬圓デアツタ、此案デハ四百萬圓ノ中半額二百萬圓以內ハ國ノ負擔トシ、アト二百萬圓ハ道府縣市町村又ハ防空計畫ヲ設定シ、若クハ特殊施設ヲ管理所有スル法人又ハ個人ニ於テ負擔スルノデアルトノコトデアリマス、サウシテ從來ノ如キ寄附勸誘等ハ、一切行ハナイトノ言明デアリマシタ

第二、本法ハ法律デ規定スベキ性質ノ事項ヲ、多ク勅令ニ譲ッテアルノハドウ云フ譯カトノ質問デアリマシタ、政府ハ航空機ノ非常ナル進歩ニ伴ウテ、防空方法モ變更シナケレバナラヌ場合ガ生ジマス、ソレニハ隨時變更ニ應ズル方法ヲ講ズル必要ガアルノデ、一々法律ノ改正ヲ待ツノデハ機ヲ逸スルカラ、勅令ニ譲ツタトノ答辯デアリマシタ

第三、防空委員會ノ組織ニ對スル質問ニハ、官民ノ間ヨリ委員ヲ選ンデ、中央ハ各省ノ官吏、民間ノ適材者、府縣市町村ハ府縣知事、市町村長並ニ民間ノ適材者ヲ以テ組織スルトノ答辯デアリマシタ

第四、此法律ハ時節柄最モ必要デアルト思フ法案故、本案成立後本年度ヨリ實施シテハドウデアアルカトノ質問デアリマシタ、之ニ對シテ政府ハ色々準備モアリ、又國民ノ權利義務ニ關スル事項モ多イシ、此種ノ法律ハ初メデアアルカラ、準備ヲ完全ナラシムル爲ニ、一箇年以後ト致シタノデアアル、併ナガラ總テノ準備ガ割合ニ早く出來タナラバ、實施ヲ早メルカモ知レスト云フ答辯デアリマシタ、其他必要ナル質問應答ガアリマシタガ、ドウカ速記録ニ依ッテ御覽ヲ願ヒマス、採決ノ結果全會一致本案ヲ可決致シタ

次第デアリマス、此段御報告致シマス(拍手)
○副議長(岡田忠彦君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ
○中山福藏君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通リ可決セラレンコトヲ望ミマス
○副議長(岡田忠彦君) 只今ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

防空法案 第二讀會(確定議)
○副議長(岡田忠彦君) 別ニ御異議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告通リ可決確定シマシタ(拍手)
○中山福藏君 殘餘ノ日程ヲ延期シ、本日は是ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス
○副議長(岡田忠彦君) 只今ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、此際一言致シマス、委員ニ付託セラレテ居リマス議案ガ多數アリマス、其進行ヲ圖ランガ爲ニ、明二十八日ハ本會議ヲ休ミマス、各委員長諸君ニ於カレマシテハ、各付託議案ノ審査ニ付然ルベク御取計ヒアランコトヲ望ミマス、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日は是ニテ散會致シマス
午後五時三十九分散會

衆議院議事速記録第三二號中	
正誤	正
頁 段 行 誤	補償
八六四 三 二四 保證	正
衆議院議事速記録第三三號中	
正誤	正
頁 段 行 誤	國民
八九七 二 一四 良民	第一條第二項
八九九 三 八 二條	第一條第二項
八九九 三 二〇 二條	第一條第二項

官報號外

昭和十二年三月二十八日

衆議院議事速記録第三十三號

九二八